KIORITZ

共立自走式4輪キャリー
ラジコン動噴

取 扱 説 明 書

型 式

VRC6170F3-10
VRC4570F3-10
VRC4570F3-8

型 式

VRC4570F2-10
VRC4570F2-8
VSC4570F-10
VSC4570F-8

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

目　次

安全にご使用いただくために 3

1 付属品の確認 6

2 各部の名称 7

3 警告表示ラベル 10

4 作業の準備 11
4-1. ホースの接続 11
4-2. ホースガイドの取り付け 11
4-3. ホースストッパの取り付け 12
4-4. ノズル（別売品）の接続 12
4-5. かくはん機（別売品）の取り付け 12
4-6. 送信機の準備 13
4-7. エンジン・動噴の準備 14
4-8. 燃料の準備 15
4-9. 農薬の準備 16
4-10. エンジンの始動 17
4-11. エンジンの停止 18
4-12. 送信機によるエンジンの停止 19
4-13. 走行 20
4-14. 停止 20
4-15. 輸送 20

5 作業方法 24
5-1. スプレーホースの繰り出し 24
5-2. スプレーホースの巻き取り 25
5-3. 圧力の操作 27
5-4. 散布作業 27
5-5. 作業終了後 29

6 点検・整備 30
6-1. 潤滑油について 30
6-2. 各部の点検 30
6-3. 各部の注油・給油 31
6-4. ホース押さえローラの調整 33
6-5. 中間軸ベルトの調整 33
6-6. ポンプベルトの点検・調整 33
6-7. トラバースチェーンの点検・調整 34
6-8. 発電体のベルト点検・調整 35
6-9. ホースリールベルトの点検・調整 35
6-10. 走行ミッションのベルト点検・調整 36
6-11. タイヤの点検 36
6-12. ブレーキの調整・点検 36
6-13. ヒューズの交換 37
6-14. 点火プラグの交換 37
6-15. ポンプのピストンパッキン、水シールの交換 38
6-16. ホース類の点検 38

7 保管 39

8 故障対策 40
8-1. 故障診断表 40
8-2. 製品の破棄 41

9 仕様 42

10 配線図 45

安全にご使用いただくために

警告表示について

⚠ 危険	⚠ 警告	⚠ 注意
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。	**その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。**	**その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。**

その他の表示について

	丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表します。

重要
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です。

シンボルマークについて

シンボルマーク	意味	シンボルマーク	意味
	ご使用前に取扱説明書を読み、正しく作業すること		「挟まれ」に注意すること
	作業中は保護具を必ず着用すること		回転部の「巻き込まれ」に注意すること
	通気の悪い場所で製品を使用しないこと		「毒性」に注意すること
	「火災」に注意すること		「高温部」に注意すること
	「電気ショック」に注意すること		薬害や環境汚染に十分に配慮し、薬液は必ず使い切ること

安全にご使用いただくために

重要なお知らせ

⚠ 警告

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください

取扱説明書



- **この取扱説明書には、製品の組み立てや操作、点検・整備に必要な事項が書かれているので、よく読んで理解してください。**
- **この取扱説明書は、いつでも読めるように保管してください。**
- **製品の改良のため、予告なしに内容を変更することがあります。**
- **使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。**
- **損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から購入してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用目的以外の使用禁止

- **この製品は、液剤散布作業をするためのものです。**
- **本書に記載されている用途以外に使用しないでください。**
- **日本国内でのみ使用してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の改造禁止

- **製品を改造しないでください。**

事故や重傷を負う原因となります。

点検・整備をしていない製品の使用禁止

- **定期的な点検・整備をしてください。**
- **カバーを外したままで運転しないでください。**
- **回転部に手を入れないでください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の貸与、譲渡

- **製品を貸すとき、借りて作業する人に取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行った後、取扱説明書と製品を貸与してください。**
- **製品を貸すとき、譲るときは、この取扱説明書も渡してください。**

事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用者



- **体調不良、疲労している、酒類を飲んでいる、薬物を服用しているなど、体調が万全でないときは使用しないでください。**
- **次のような人は使用しないでください。**
  - **妊娠している人**
  - **農薬の影響を受けやすい人**
  - **16 歳未満の人**
  - **取扱説明書の内容を理解していない人**

事故や重傷を負う原因となります。

保証書

- **使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。詳しくは保証書をお読みください。**

安全にご使用いただくために

⚠ 警告

健康管理

- **休憩をとりながら余裕を持って作業してください。**
- **長時間の連続作業は避け、2 時間を限度にしてください。**

健康障害を受ける恐れがあります。

- **作業中や作業終了後、身体に異常を感じたときは医師の診察を受け、使用した農薬の種類を告げてください。**

処置が遅れることにより、健康障害につながることがあります。

保護具の着用

- **農薬散布時は、適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。農薬に直接触れないでください。**

農薬に触れたり吸引すると、薬害事故を負う原因となります。

- **首にタオルを巻いたり、腰てぬぐいをしないでください。**

回転部に巻き込まれて、事故の原因となります。

- **作業中に着た服は、他の衣服と別に洗ってください。**

薬害の原因となります。



製品の使用環境・作業環境

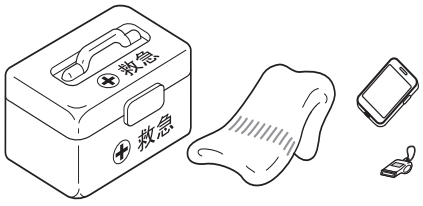
- **次のような場合は製品を使用しないでください。**
  - **降雨時や落雷の恐れがあるとき**
  - **急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所**
  - **夜間や視界が悪い場所**

転倒や滑落、誤った操作などにより重傷を負う原因となります。

事故やケガへの備え

- **事故やケガに備え、下記の用具を用意してください。**
  - **救急箱（応急手当用）**
  - **タオルやてぬぐい（止血用）**
  - **呼子や携帯電話（外部との連絡用）**

応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。



発火・発煙・火災への備え

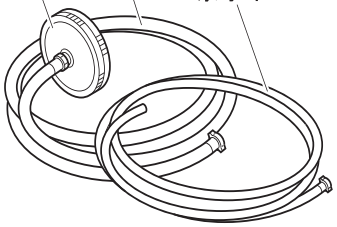
- **発火・発煙・火災に備え、消火器やシャベルを用意してください。**
- **エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、製品から離れ、身体の安全を確保してください。**
- **周囲に類焼しないようにシャベルで砂などをかけるか、消火器で消火してください。**

あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。

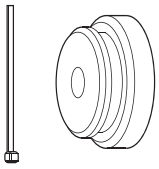
1. 付属品の確認

❍ 欠品や破損などがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

吸水ストレーナ
吸水ホース
余水ホース



ホーススストッパー1組

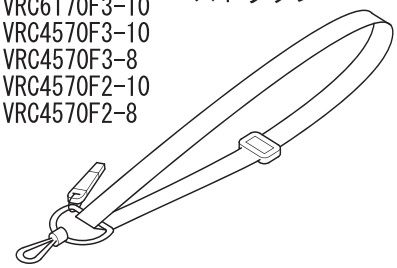


VRC6170F3-10
　吸水ホースパッキン（1）
　吐出ホースパッキン（3/8，1/4）

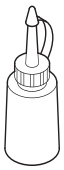
VRC4570F3-10, VRC4570F3-8, VRC4570F2-10
VRC4570F2-8, VSC4570F-10, VSC4570F-8
　吸水ホースパッキン（3/4）
　吐出ホースパッキン（3/8，1/4）



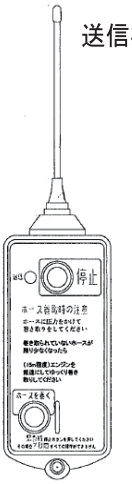
ストラップ
VRC6170F3-10
VRC4570F3-10
VRC4570F3-8
VRC4570F2-10
VRC4570F2-8



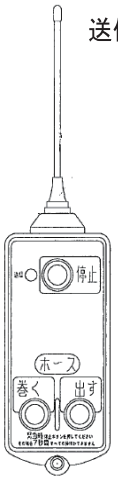
オイラ



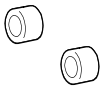
送信機2CH



送信機3CH

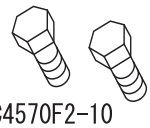


ホースガイド取付間筒 2ケ



VRC4570F2-10
VRC4570F2-8
VSC4570F-10
VSC4570F-8

ボルト 2ケ
M8×20

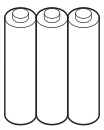


VRC4570F2-10
VRC4570F2-8
VSC4570F-10
VSC4570F-8

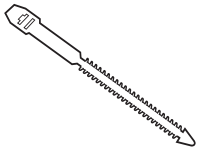
ホースガイド戻しバネ
VRC4570F2-10
VRC4570F2-8
VSC4570F-10
VSC4570F-8

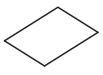


単四乾電池

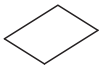


束ねバンド

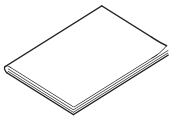




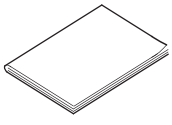
特別保証書



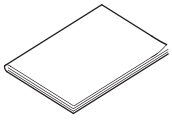
保証書



取扱説明書（製品）



取扱説明書（動力噴霧機）

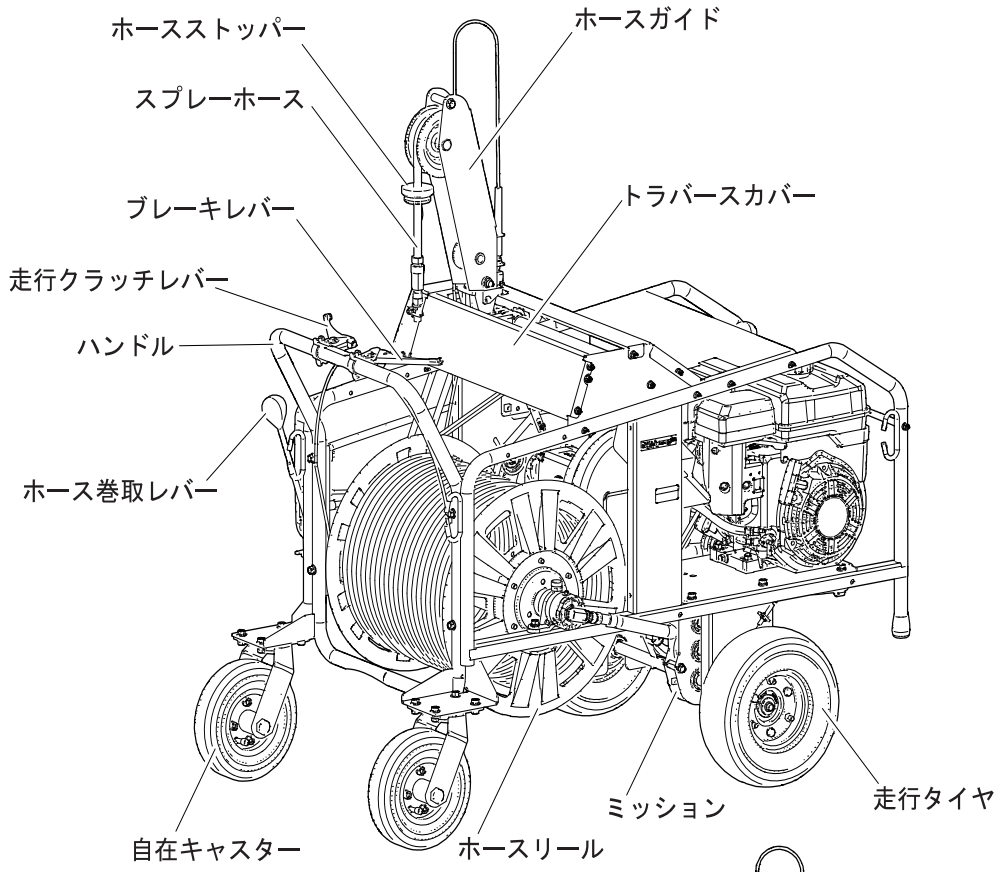


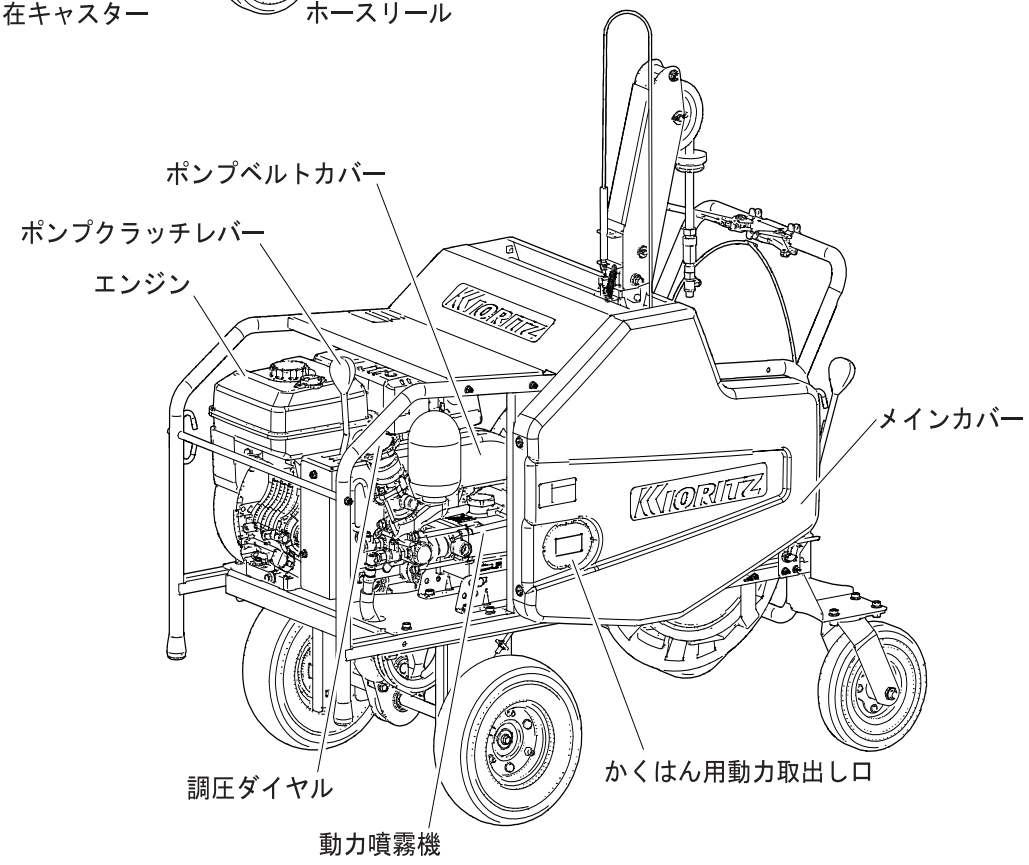
取扱説明書（エンジン）

2. 各部の名称

❍ 本書で説明している製品の各部の名称を示しています。ご使用前に各部の名称を理解してください。

VSC4570F-10・VSC4570F-8

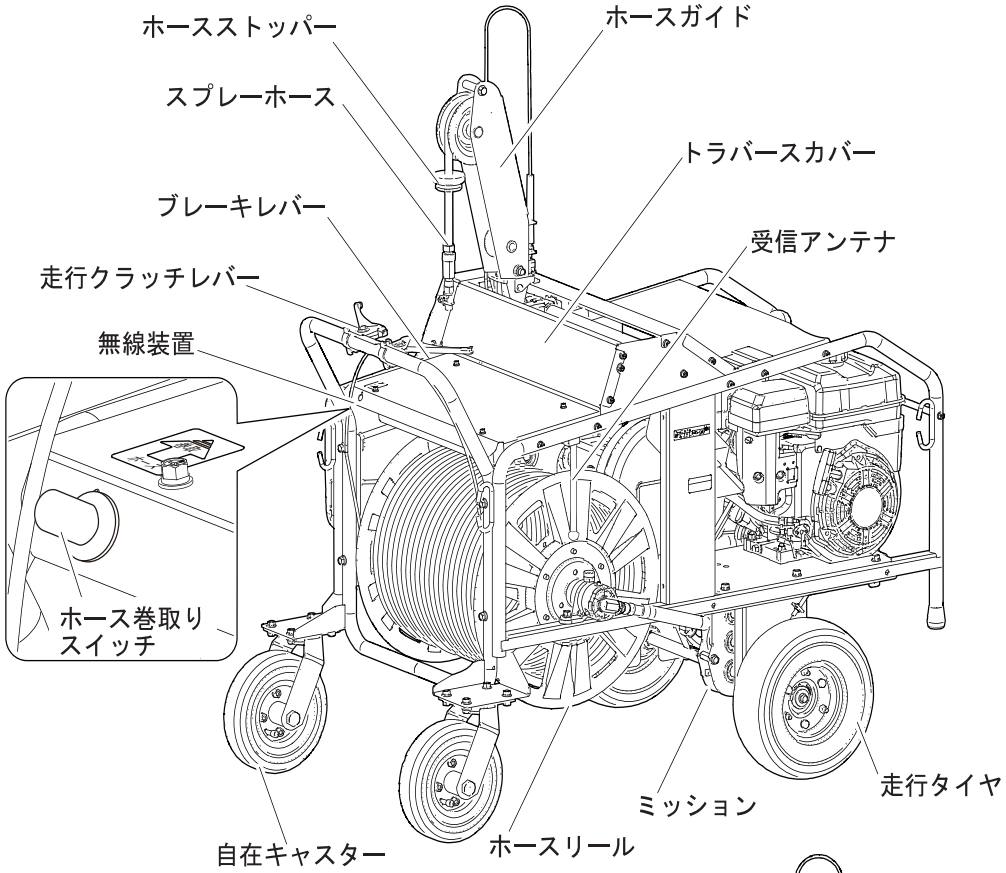




2. 各部の名称

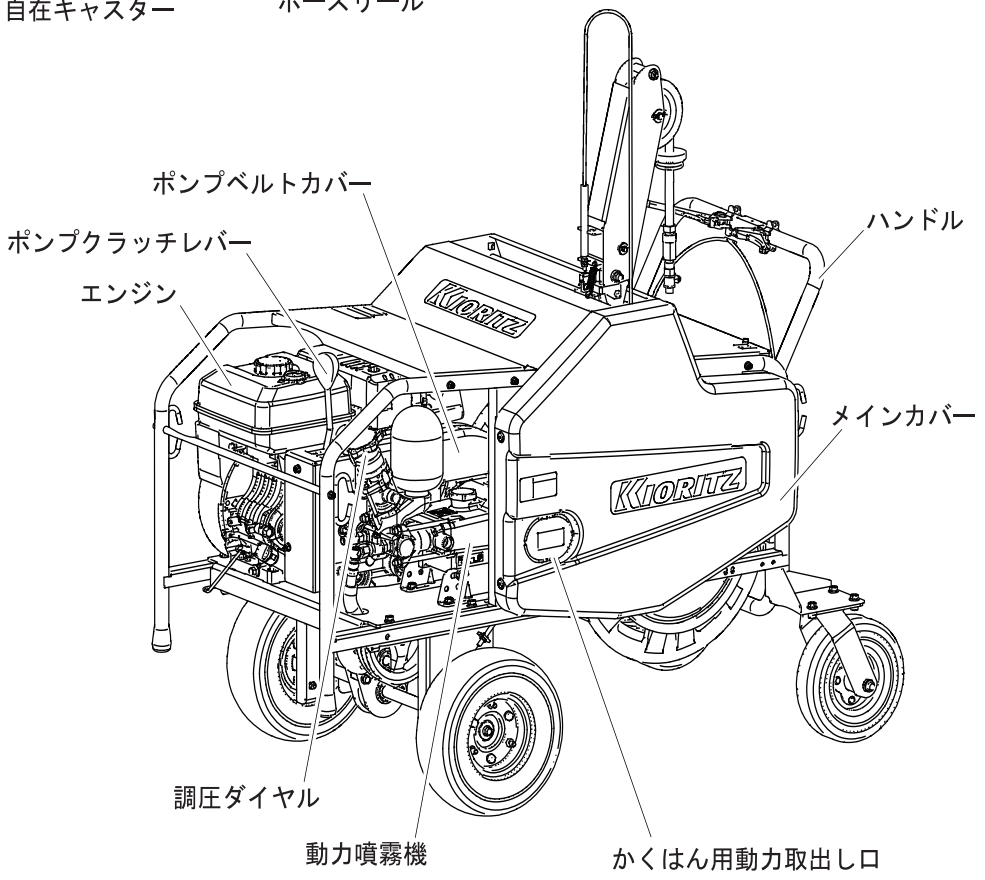
❍ 本書で説明している製品の各部の名称を示しています。ご使用前に各部の名称を理解してください。

VRC4570F2-10・VRC4570F2-8





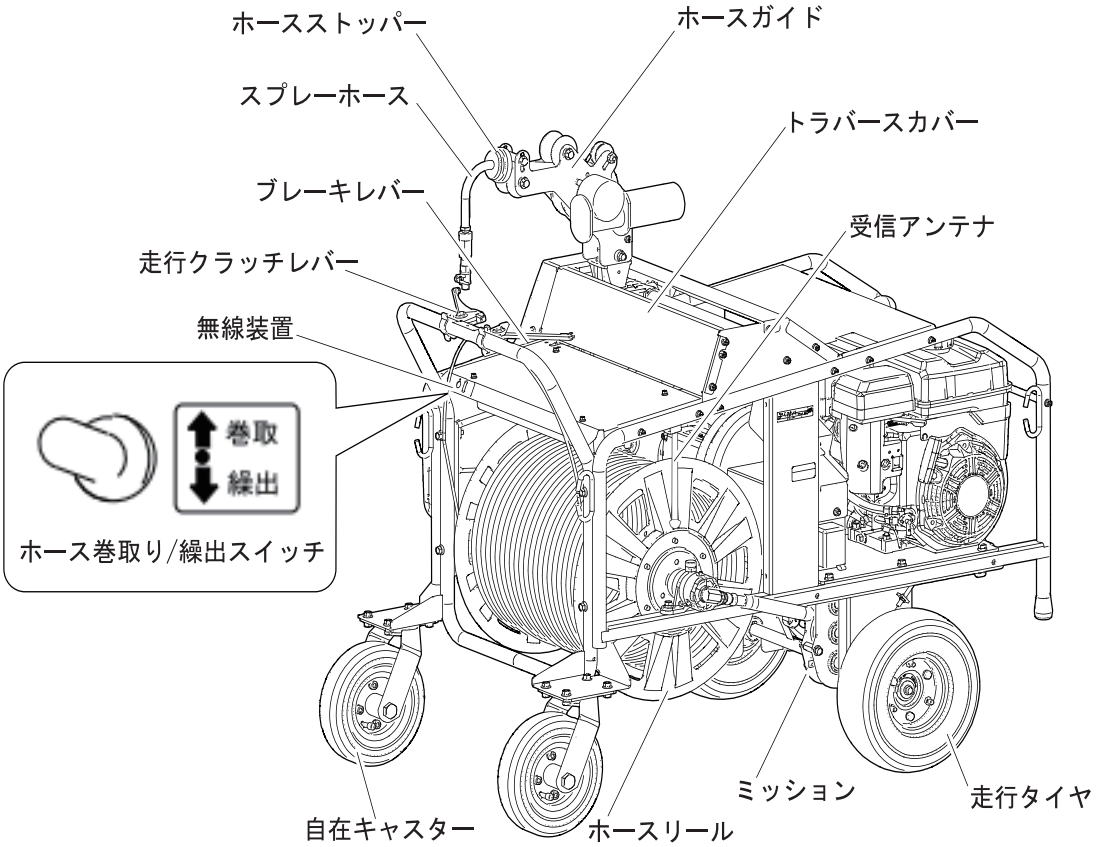
2CH送信機

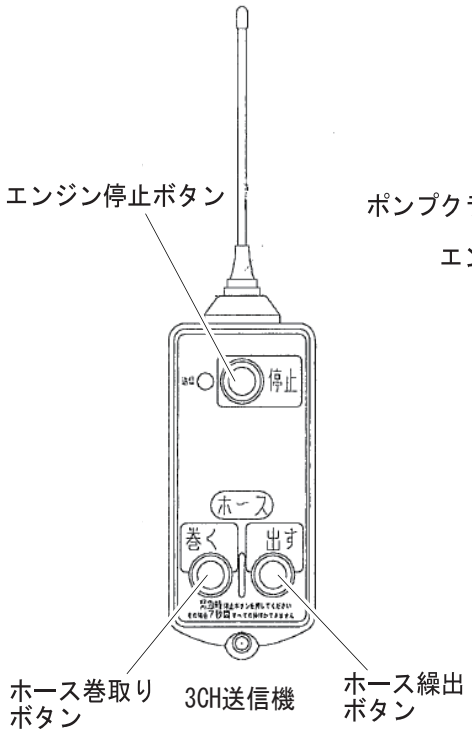


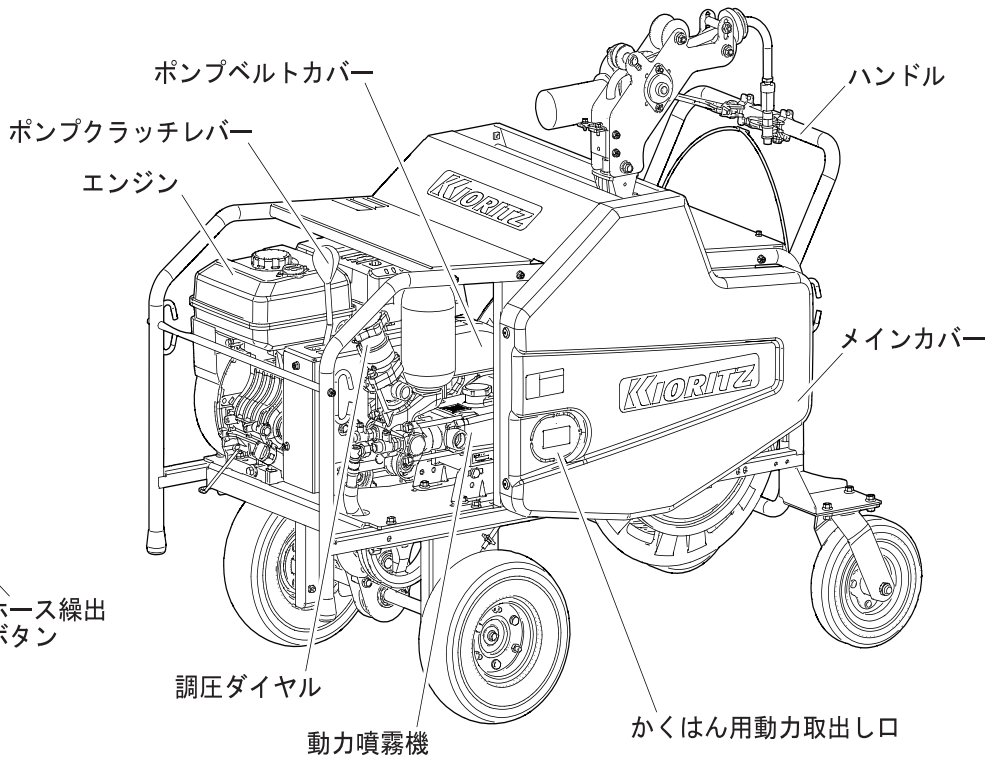
2. 各部の名称

❍ 本書で説明している製品の各部の名称を示しています。ご使用前に各部の名称を理解してください。

VRC6170F3-10・VRC4570F3-10・ VRC4570F3-8

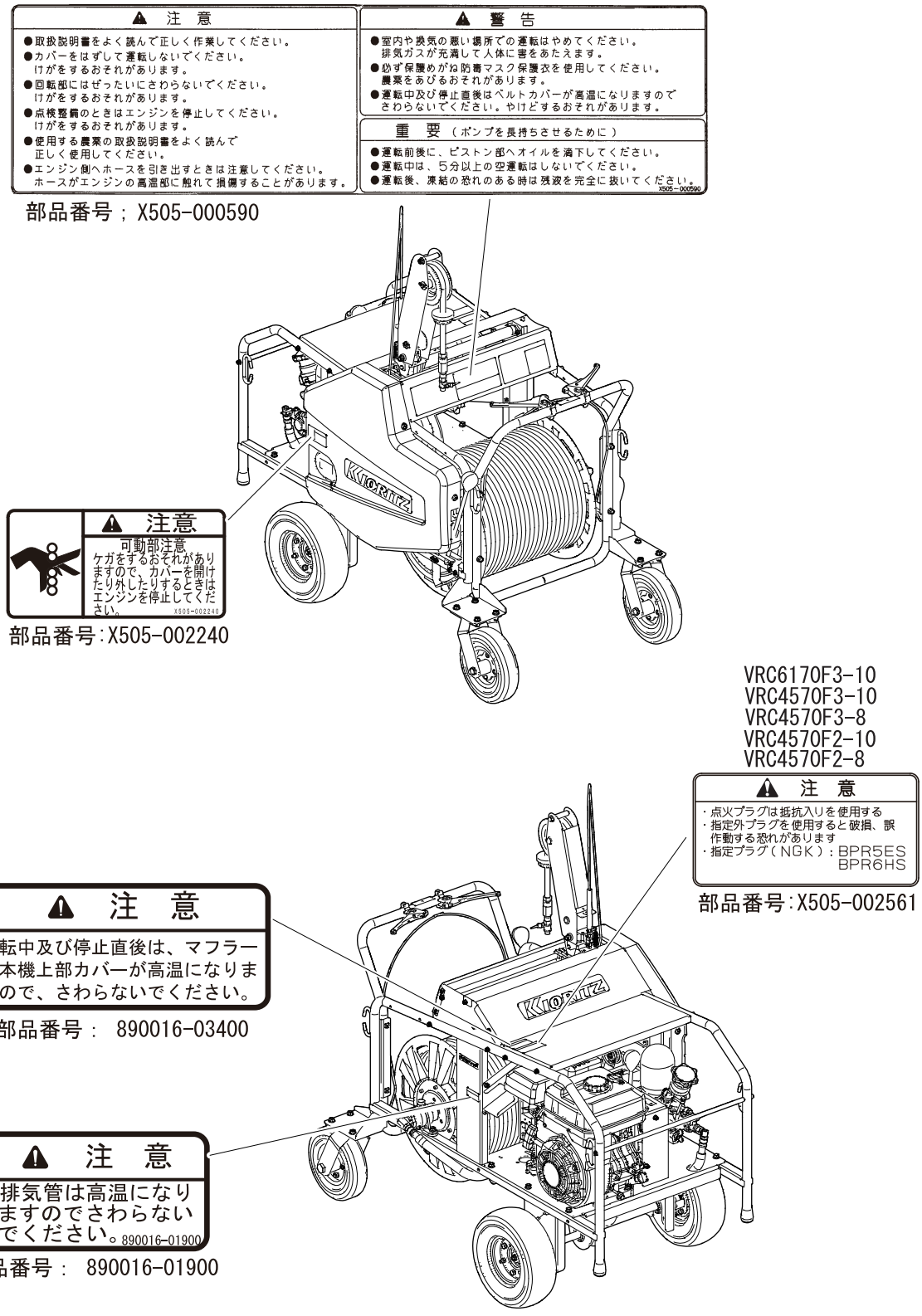






3. 警告表示ラベル

❍ 本書で説明している製品の警告表示ラベルを示しています。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
❍ ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店からラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。

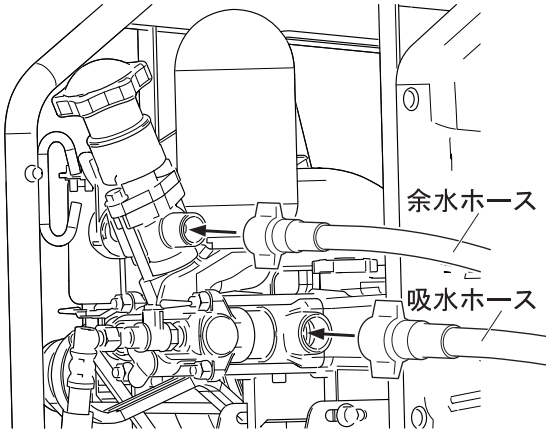


4. 作業の準備

4-1. ホースの接続

⚠ 警告

❍ ホースが劣化したり漏れがあるときは取り替えてください。
薬害事故を負う原因となります。



1. 接続金具のパッキンを確認して、動噴に吸水ホースを接続し、ストレーナを接続し、ストレーナを水没させてください。
2. パッキンを確認して動噴に余水ホースを接続し、ホース先端を水没させてください。

⚠ 注意

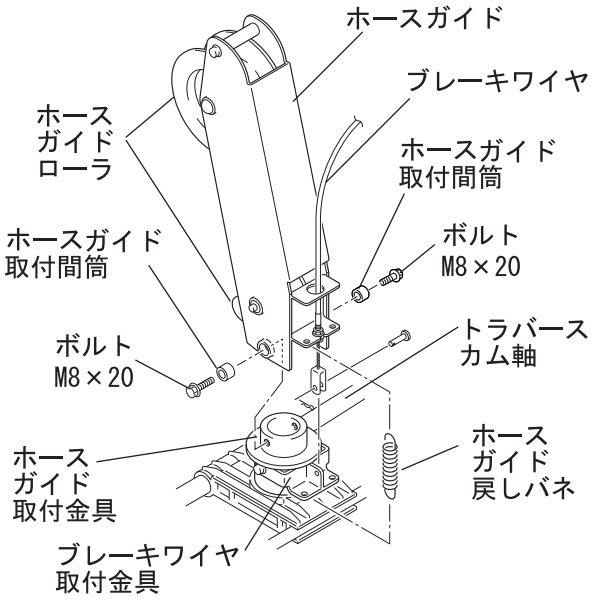
❍ 余水ホースは束ねバンドで固定してください。
圧力切替え操作時に、余水ホースがあばれて薬液をかぶり、薬害事故を負う恐れがあります。

重要

❍ ホースの接続金具は強く締め過ぎないでください。パッキンが損傷する恐れがあります。
❍ ホースは無理に曲げたり、ねじれがないよう取り付けてください。

4-2. ホースガイドの取り付け

VSC4570F-10,VSC4570F-8
VRC4570F2-10,VRC4570F2-8



1. ホースガイドを付属のホースガイド取付間筒、ボルト M8×20 で、ホースガイド取付金具に取付けてください。

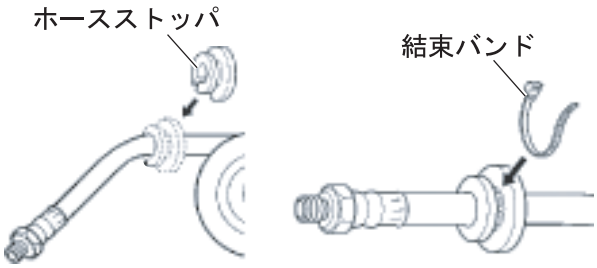
重要

❍ ホースガイド取付間筒は、外側にグリスなどを塗布した後に組付けてください。

2. ブレーキワイヤをブレーキワイヤ取付金具に取付けてください。
3. ホースガイド戻しバネを取付けてください。
4. スプレーホース先端のヨリモドシとコックを外してから、スプレーホースをホースガイドのローラにそわせてホースガイドに通してください。
5. 外していたヨリモドシとコックを取付けてください。

4. 作業の準備

4-3. ホースストッパの取り付け

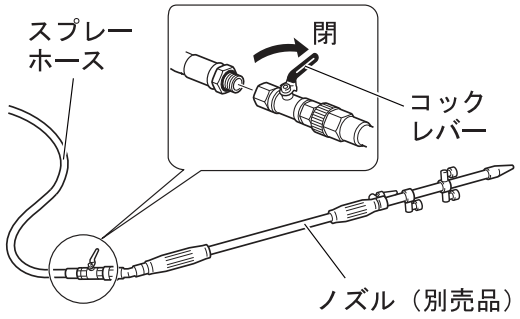


＊ 全機種共通

1. スプレーホース先端から約 3m の位置（使用上都合の良い場所）にホースストッパを組付けます。
2. ホースストッパ用のバンド（付属品）で確実に固定します。（手で引っ張りズレない程度）

重要
❍ ホースストッパは必ず取り付けてください。 ホース巻き取り時に誤作動が生じた場合、巻き込みを防止します。

4-4. ノズル（別売品）の接続



1. コックレバーを「閉」位置にしてください。
2. 接続金具パッキンの確認をしながら、スプレーホース、ヨリモドシ、コックレバー、ノズル（別売品）の順に接続してください。

＊ スプレーホースの継手ネジは ＩＳＯ 規格です。
接続ネジの適合性を確認してください。
＊ 標準装備しているスプレーホースは耐圧力 5.0 MPa (50 kgf/cm^2) です。
＊ 無理な曲げ、引っ張り、折れ、ねじれがないようにしてください。

重要
❍ 適正な圧力を保つために、散布用ノズルの総吐出量は、動噴の吸水量 90 % 以下で使用してください（余水量 10 % 以上）。

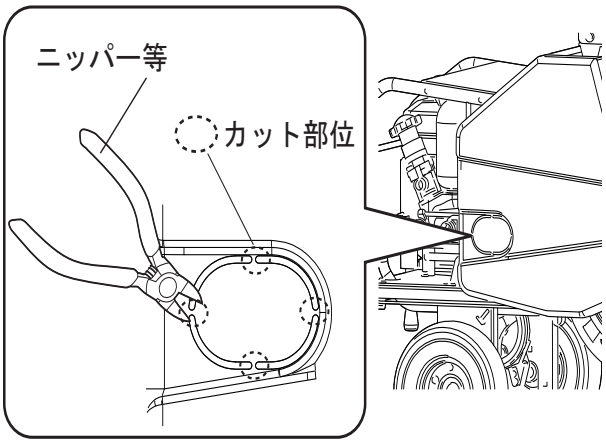
4-5. かくはん機（別売品）の取り付け

かくはん機は「右回転用 」を使用してください。市販のかくはん機を取付ける場合、かくはん取出用の軸とボルト（オプション）が必要です。

❍ かくはん軸セット

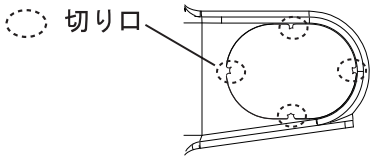
部品コード :P021-002510

セット内容	個数
かくはん軸	1
ボルト（M6×16）	3
バネ座金（SW6)	3



❍ 取付け方法

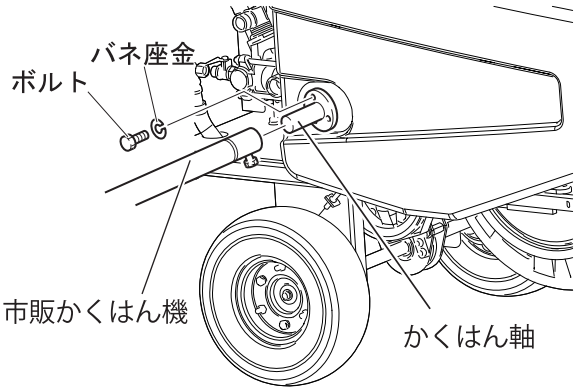
1. かくはん軸使用時はニッパー等でかくはん軸部のカバーを切り離してください。



⚠ 注意

❍ 切り口に注意してください。

ケガをする恐れがあります。



2. かくはん軸をボルト M6×16（3 本）とバネ座金 SW6（3ヶ）とで、本機のポンプ軸端部へ取付けます。
3. 市販かくはん軸を φ19 アダプタを使用して取付けます。（かくはん機を取り付けは、かくはん機の取扱説明書をよく読んでください。）

4-6. 送信機の準備

⚠ 警告

❍ 乾電池を使用するときは、次のことを守ってください。

- **火中への投入、加熱、分解をしない**
- **幼児に触れさせない**
- **ショートさせない**
- **直射日光や火などの過度の熱にさらさない**

乾電池の液もれ、発熱、破裂などにより、重傷を負う原因となります。

❍ 送周辺環境に電波障害を与える恐れがある場合には、使用を中断してください。

⚠ 注意

❍ 乾電池を使用するときは、次のことを守ってください。

- **製品の動作が不調と感じたら交換する**
- **指定された乾電池を使用する**
- **プラス・マイナスの表示通りに入れる**
- **使用推奨期限内の乾電池を使用する**
- **乾電池を使い切ったら、すぐに取り外す**
- **長時間使用しないときは乾電池を取り外す**

製品の動作不良、乾電池の液もれ、発熱、破裂などにより、重傷を負う恐れがあります。

重要

❍ 単四乾電池を使用してください。

❍ 乾電池の使用時間は、約 50 時間です。長時間使用して頂ける、乾電池の使用をお勧めいたします。

充電池は低電圧なため、使用時間が短くなります。

❍ 乾電池は 3 本同時に新品と交換してください。

消耗した乾電池を使用すると、送信機の操作ができなくなったり、送信機が故障する恐れがあります。

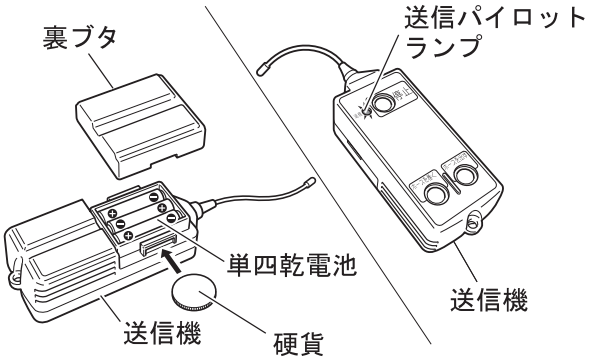
❍ 乾電池と充電池は混ぜて使用しないでください。

電池容量の低い電池にダメージが加わり、劣化や液漏れの原因となります。

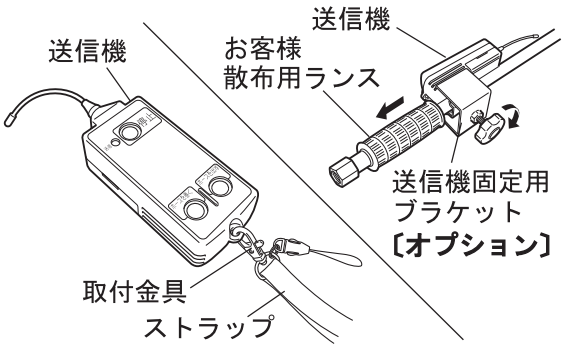
4. 作業の準備

異常時の対応

- 電池が液漏れしたときは、漏れた液をよく拭きとってください。漏れた液が皮腐や衣類に付着したときは、すぐに大量の水で洗い流してください。
- 子どもが乾電池を飲み込んだときは、すぐに医師に相談してください。
- 漏れた液が目に入ったときは、失明の原因となるので、目をこすらずに、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、すぐに医師に相談してください



1. 送信機裏ブタのすき間に硬貨などを掛け、裏ブタを取り外してください。単四乾電池３本の (＋)(－) を間違えないように入れてください。裏ブタを送信機に取り付けてください。
2. 送信機の各ボタンを押して、送信パイロットランプが点灯するのを確認してください。



3. 送信機にストラップを取り付けてください。

＊ オプションで送信機固定用ブラケットが設定されています。ご購入は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

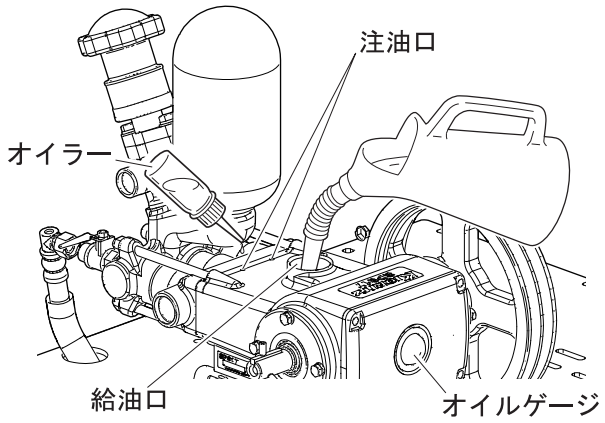
重要
❍ 水をかけたり、水没させたりしないでください。 ❍ 自動車内などの高温多湿になる場所に保管しないでください。 ❍ 落としたり衝撃を与えないでください。故障の原因となります。また、電源が切れることがあります。そのような場合には電源を入れ直して操作してください。

4-7. エンジン・動噴の準備



1. 製品を水平な場所に置いてください。
2. エンジンの取扱説明書を参照して、クランクケースにオイルが正規油面まで入れてください。

重要
❍ 正規油面より多く入れるとオイルが吹き出ることがあります。 ❍ エンジンのオイルゲージは確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルがもれることがあります。



3. 動噴の取扱説明書を参照して、オイルをいれてください。
4. 注油口（2 箇所）に付属のオイラで 10 滴程注油してください。
   * 使用毎に注油すれば、水シールの寿命が長くなります。
5. 点検・整備の項目を参照して、各部オイルの点検・交換をしてください。(30 ページ参照)

4-8. 燃料の準備

⚠ 危険

❍ 燃料はエンジンを停止し、エンジンが冷えてから補給してください。
❍ 補給中にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負うことになります。



⚠ 警告

❍ 燃料補給前に必ず静電気を逃がしてください。
❍ 燃料補給時に金属製の漏斗（ろうと）を使用しないでください。

静電気が燃料に放電して、火災の原因となります。

❍ 燃料は風通しの良い場所で、製品と補給用タンクを地面に置いて補給してください。
❍ 燃料を燃料タンクの口元まで入れないでください。
❍ 燃料が少しでもこぼれたら必ず拭き取ってください。ただし湿度が低いときは、乾いた布で拭くと静電気を帯びやすいので、水を湿らせた布で拭き取るようにしてください。
❍ 燃料経路周辺が損傷したり、燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
❍ 補給用タンクは火気のない日陰に置いてください。
❍ 燃料を運搬する際は鋼板製の携行缶を使用してください。
❍ 余った燃料は鋼板製の携行缶で保管してください。

燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負う原因となります。

❍ 燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
❍ エンジンを始動するときは、特に次のことを守ってください。

- **製品を平坦で通気の良い、可燃物のない場所に置く**
- **燃料が漏れていないか確認**

火災の原因になります。

❍ エンジンの排気ガスには、有毒なガスが含まれています。屋内など通気の悪い場所で製品を運転しないでください。
❍ 屋内でやむをえず運転するときは、窓や戸を開けて換気をしてください。

排気ガスによる中毒事故の原因となります。



1. 燃料タンクのキャップを開け、燃料を入れてください。
2. 補給後は、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。

4. 作業の準備

4-9. 農薬の準備

⚠ 警告

農薬の取り扱い

- **農薬ラベルをよく読み、必ず記載されている事項を確認してください。**
- **製品ならびに農薬の知識を持った人が、農薬を取り扱ってください。**

  農薬の誤った使用は、重大な薬害事故の原因となります。

- **農薬は残らないよう調製し、必ず使い切ってください。**

  第三者が農薬と知らずに誤って飲み込むなど、重大な薬害事故を引き起こす恐れがあります。

農薬使用上の注意

- **農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用して、農薬に直接触れないでください。**
- **農薬が目に入らないようにしてください。**
- **作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。**
- **誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は直ちに吐き出して、医師の手当てを受けてください。**
- **農薬使用中に異常を感じたときは、作業を中止し、直ちに医師の手当てを受けてください。**
- **薬害や環境汚染を起こさないように十分配慮してください。**
- **農薬の種類によっては、**
  - **農薬が目に入った場合は直ちに水洗いし、眼科医の手当てを受けてください。**
  - **かぶれを生ずる場合があるので注意してください。かぶれやすい人は使用を控えてください。**

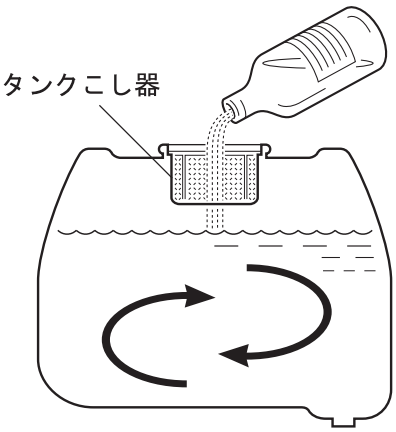
薬液の取り扱い

- **薬液はタンクからあふれるほどの量を入れないでください。また、こぼれた薬液はすぐに拭き取ってください。**

  こぼれたり漏れた薬液は、放置しておくと薬害の原因となります。

- **子供の手の届かない場所に保管してください。**

農水省、環境省令に定める「農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令」に従い、農薬は正しくお取り扱いください。詳しくは農林水産省のホームページをご参照ください。



- 薬液タンクなどをご用意ください。
  - 薬液の調製時には、保護具（5 ページ参照）を着用してください。
  - 薬液タンクで調製し、外部にこぼさないようにして、十分かくはんしてください。

⚠ 警告

- **飲料水源、河川、湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。**

  薬害を引き起こす原因となります。

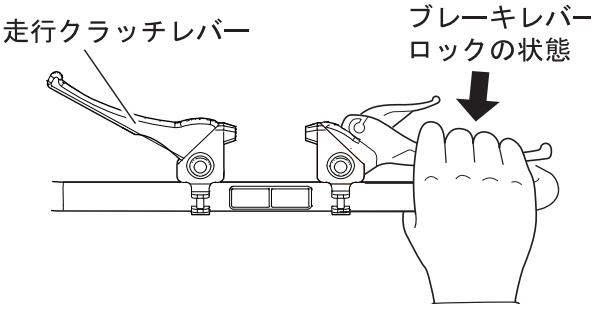
重要

- 薬剤は濃度が均一になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因になります。

4-10. エンジンの始動

⚠ 警告

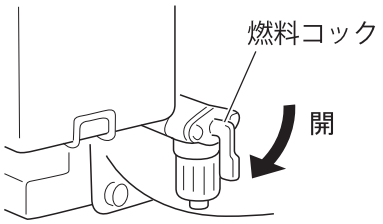
- **エンジンの排出ガスには、有毒な成分が含まれています。屋内など通気の悪い場所で製品を運転しないでください。**
  排出ガスによる中毒事故の原因となります。



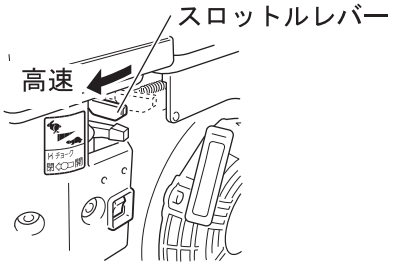
1. 安全のために、ブレーキレバーを握ってロック状態にしてください。



2. エンジンスイッチを「ＯＮ」にしてください。



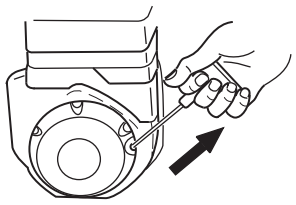
3. 燃料コックレバーを「開」位置にしてください。



4. スロットルレバーを「高速」のほうへ少し動かしてください。



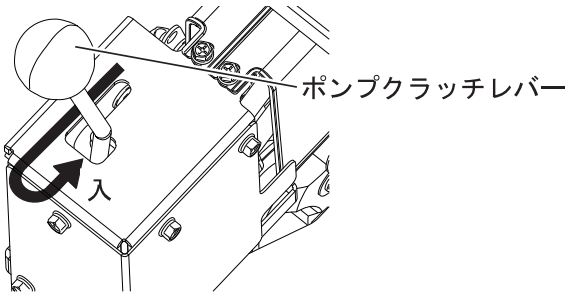
5. チョークレバーを「閉」へ動かしてください。



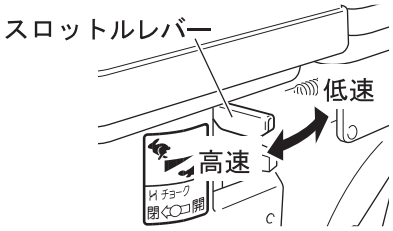
6. スタータグリップを握り、いきおいよく引いてください。



7. エンジンが始動したら、チョークレバーを「開」へ動かしてください。

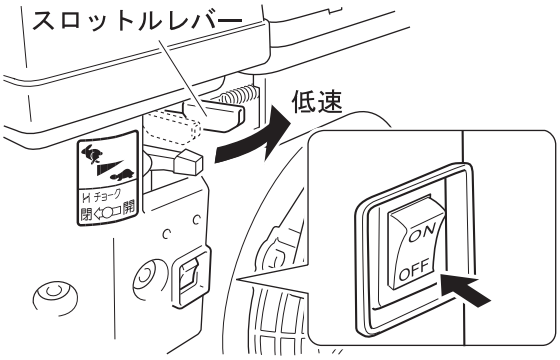


8. エンジンが始動したらポンプクラッチレバーを「入」にしてください。動力噴霧器が動き始めます。

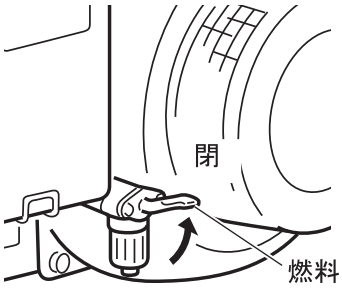


9. 動力噴霧器が動き動力噴霧機内に薬液が循環します。余水ホースからいきおいよく薬液が出ているのを確認してください。
10. スロットルレバーでエンジンの回転を調整してください。回転数を上げるときにはレバーを「高速」の方へ動かしてください。下げるときには「低速」の方に動かしてください。

4-11. エンジンの停止



【本機で停止の場合】
1. エンジンスイッチを「OFF」位置にして、エンジンを停止してください。
2. 安全のためスロットルレバーは低速にしてください。

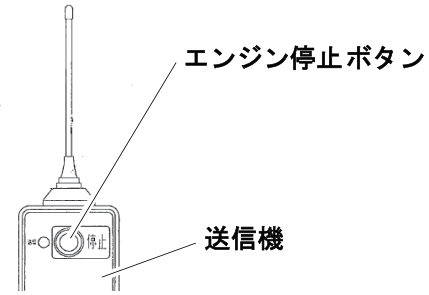


3. 燃料コックレバーを「閉」位置にしてください。

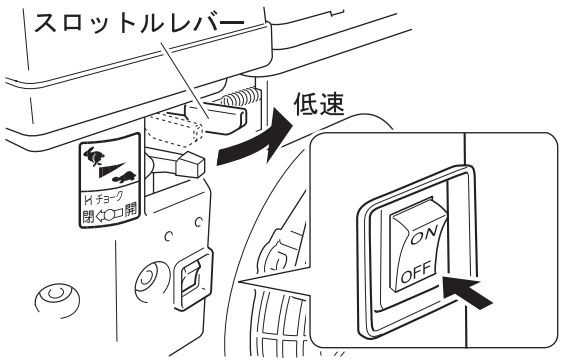
4-12. 送信機によるエンジンの停止

⚠ 警告

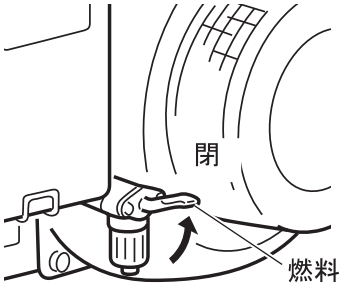
- **異常を感じた場合は、送信機のエンジン停止ボタンか、製品のエンジンスイッチで、エンジンを停止してください。**
  事故の原因となります。



1. 送信機のエンジン停止ボタンを押して、エンジンを停止してください。



2. 送信機によりエンジンは停止していますが、安全のためスロットルレバーは低速、製品のエンジンスイッチは OFF にしてください。



3. エンジン本体の燃料コックレバーを「閉」位置にしてください。

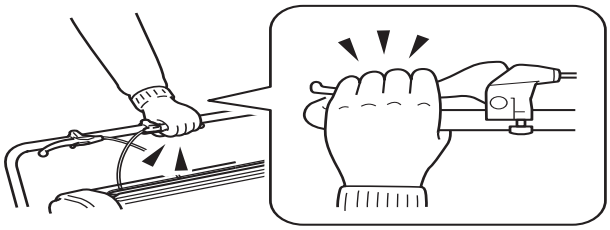
4-13. 走行

⚠ 警告

- **一般道路（公道）の走行はできません。輸送車に乗せて移動してください。**
- **製品に人や物を乗せないでください。**
- **周囲の安全を確認してから、移動してください。**
- **急発進、急ブレーキ、急旋回の操作をしないでください。**
- **最低地上高（90 mm）以上の凹凸がある場所では、製品を走行させないでください。**

事故の原因となります。



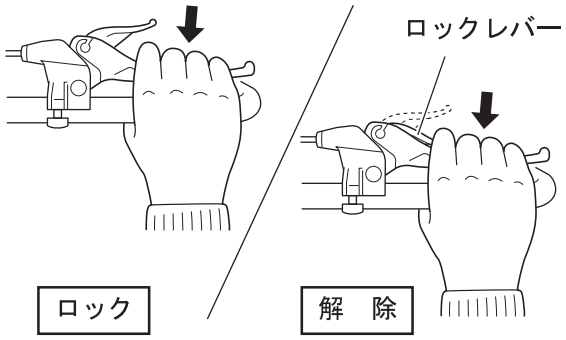


1. 走行クラッチレバーを握ってください。

重要

- あらかじめ製品から吸水ホース、余水ホースを取り外しておいてください。

4-14. 停止



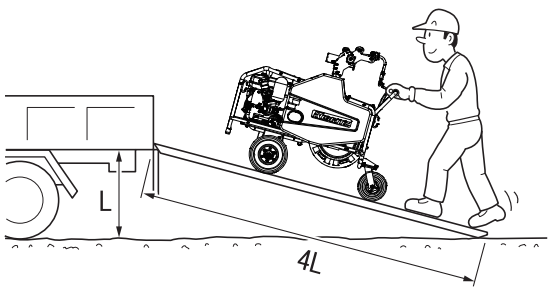
1. ブレーキレバーを強く握ると自動で駐車ブレーキがかかります。ロックレバーを一緒に握ってブレーキをかけると、駐車ブレーキはかかりません。

4-15. 輸送

⚠ 警告

- **障害物のない平坦な硬い場所で積み降ろしをしてください。**
- **周囲を確認し、製品の周りに人を近づけないでください。**
- **アユミは強度、幅、長さ（地上から荷台床板までの高さの４倍以上のもの）が十分にあり、滑り止め、フックのあるものを使用してください。**
- **アユミは輸送車の荷台に平行に掛け、フックが外れないことを確認してください。**

転倒・転落などの事故の原因となります。



4. 作業の準備

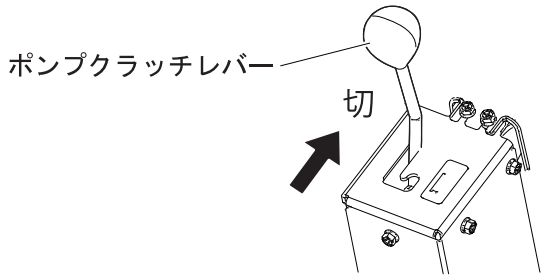
⚠ 注意

❍ **製品の重量や大きさに見合った輸送車を使用してください。**

事故の原因となる恐れがあります。

❍ **製品はロープで固定してください。**

レバーブロックやチェーンブロックで固定すると製品が破損し、思わぬ事故の恐れがあります。



製品を移動するときやトラックなどで輸送するときは、以下の点を守ってください。

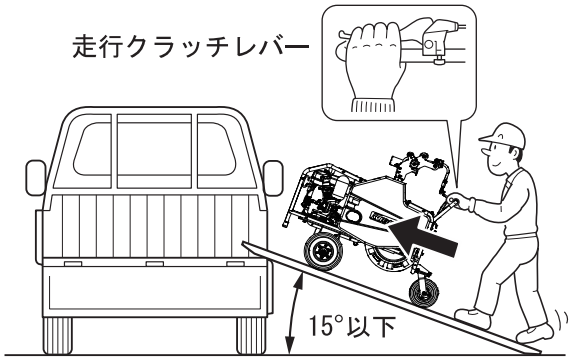
❍ 使用後に輸送・移動するときは、エンジン、マフラが冷えるまで待ってください。
❍ 長距離を輸送するときは燃料をカラにしてください。
❍ 本機に衝撃をあたえないようにしてください。
❍ ポンプクラッチレバーを「切」にしてください。
❍ 駐車ブレーキをかけてください。

■積み込み

⚠ 注意

❍ トラックへ積み込み途中にアユミ板の上で停止した後に後進（積み降ろし）をしないでください。

＊キャスターが回転し、製品が横方向に移動してアユミ板から脱落する恐れがあります。
＊ハシゴ状のアユミ板は、走行タイヤがはまり込む恐れがあります。



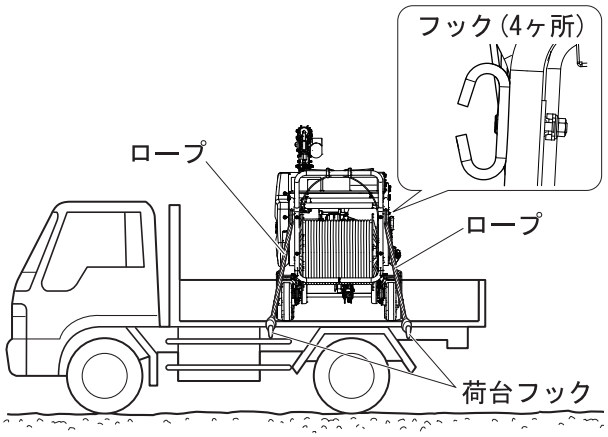
〈アユミ板の条件〉

幅	100cm 以上（2 枚合わせて使用可）
強度	200 kg 以上 2 枚使用の場合、1 枚 100 kg 以上）
形状	ハシゴ状で、本機の走行タイヤが間に はまり込むようなものは不可

❍ 最大積載量 200kg 以上のトラックを使用してください。
❍ 平坦地でトラックのエンジンを停止し、タイヤに歯止めをしてください。
❍ アユミ板の傾斜角度は 15° 以下にしてください。またアユミ板が確実にトラックの荷台にかかってはずれないことを確認してください。
❍ アユミ板の種類（ハシゴ状）によっては、負荷が大きすぎ登らないことがあります。その場合は、押すなどして補助してください。
❍ 本機のエンジンを始動してください。
❍ エンジンのスロットルレバーを低速にしてください。
❍ 走行クラッチレバーを握り、低速・前進でゆっくり積み込みを行なってください。

4. 作業の準備

■固定方法



- 製品をトラックに固定するときは、ロープを使用してください
- 製品は必ず、C 型のフックにロープを掛けてください。

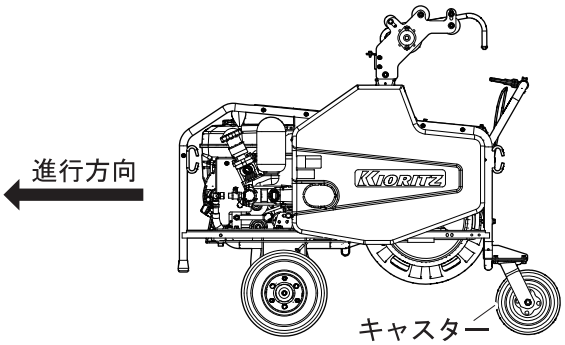
■降ろすとき

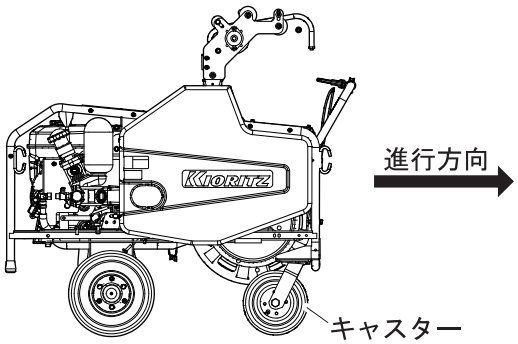
⚠ 注意

- トラックから積み降ろし途中にアユミ板の上で停止した後に前進（積み込み）をしないでください。
- キャスターが回転し、製品が横方向に移動してアユミ板から脱落する恐れがあります。
- ハシゴ状のアユミ板は、走行タイヤがはまり込む恐れがあります。

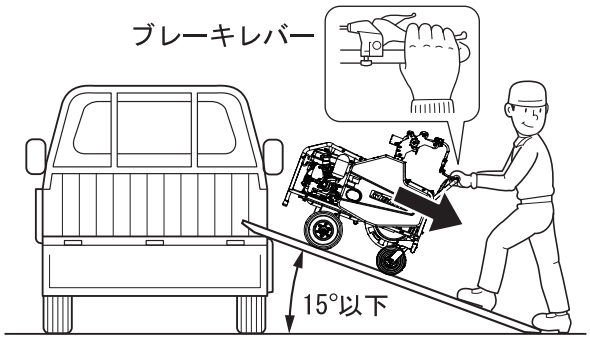
＊ 転倒、転落などの事故の原因になります。

- キャスターの向きは、進行方向に合わせて回転させてください。



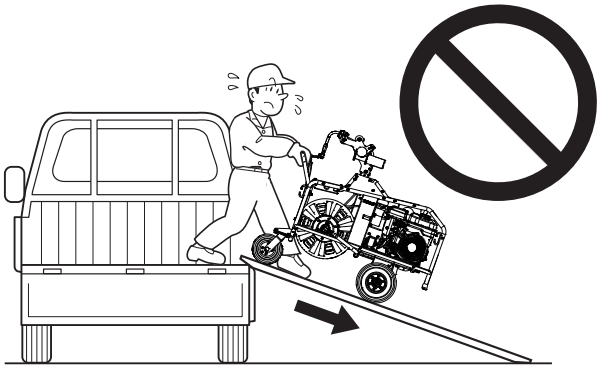


4. 作業の準備



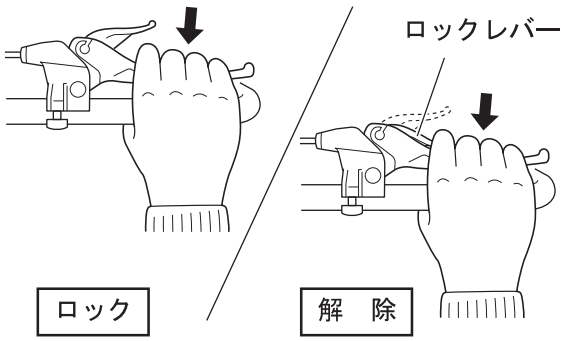
❍ 必ず本機のエンジンは停止してください。
❍ ブレーキレバーを握って、ブレーキを掛けたり、解除したりしながらゆっくりと後進で降ろしてください。

重　要
前進では、本機を降ろさないでください。



❍ 降ろしている途中、走行クラッチレバーを操作しないでください。プーリの溝にベルトが食い込み、本機が動かなくなる恐れがあります。

重　要
移動時以外は、ブレーキレバーのロックをして、駐車ブレーキをかけてください。



❍ ブレーキレバーを強く握ると自動で駐車ブレーキがかかります。これによって降ろす作業に支障が出るような場合は、ロックレバーを一緒に握ってブレーキをかけると、駐車ブレーキはかかりません。

5. 作業方法

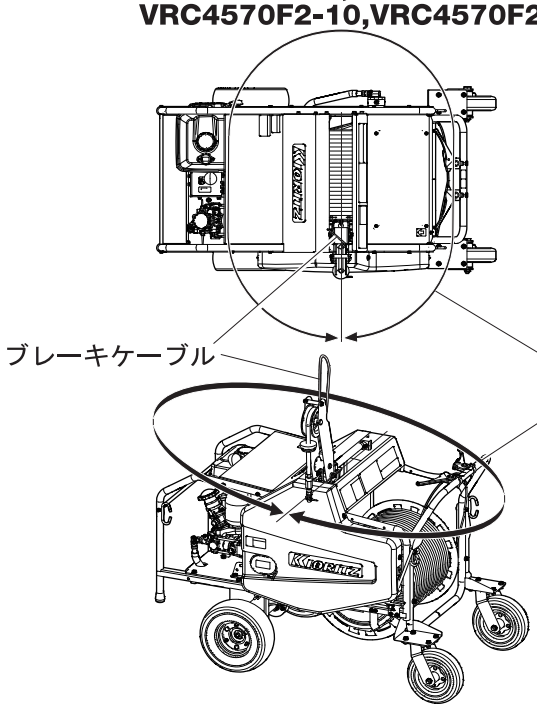
⚠ 警告

❍ **送信機で操作するときは、エンジンの始動、ホースの巻き取り、繰り出し時に、周囲に人がいないことを確認してください。**

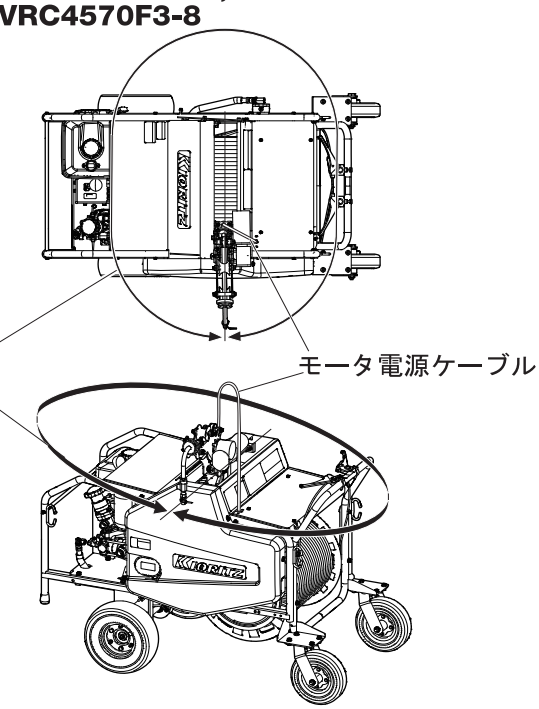
ケガの原因となります。

5-1. スプレーホースの繰り出し

VSC4570F-10,VSC4570F-8
VRC4570F2-10,VRC4570F2-8



VRC6170F3-10,VRC4570F3-10
VRC4570F3-8

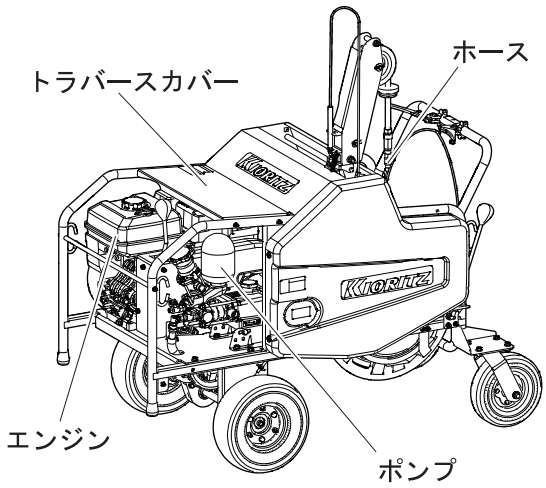


重要

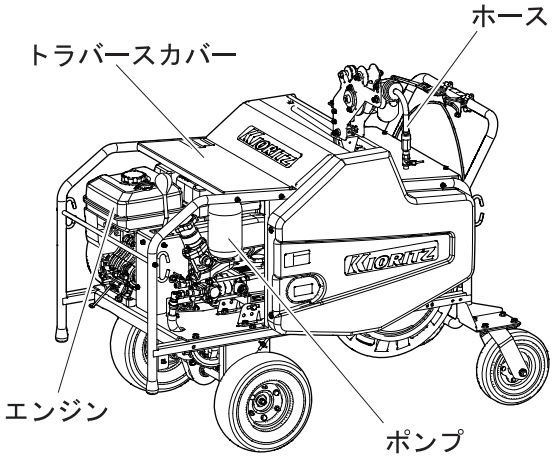
❍ ホースの繰り出し範囲は 360° 以上廻さないでください。

ホースが繰り出し範囲を超えるとホースとブレーキケーブルまたは、モーターの電源ケーブルが干渉して破損する恐れがあります。

VSC4570F-10,VSC4570F-8
VRC4570F2-10,VRC4570F2-8



VRC6170F3-10,VRC4570F3-10
VRC4570F3-8

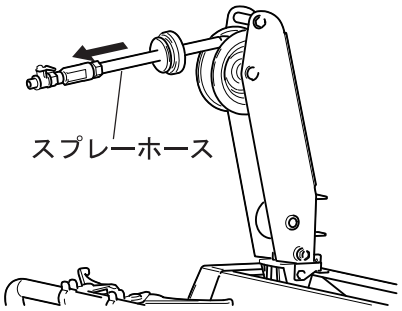


5. 作業方法

重要

❍ ホースをエンジン側に繰り出して作業をすると、泥などがエンジン、ポンプ、トラバースカバーに付着するので、定期的に清掃してきれいな状態にしてください。

VSC4570F-10,VSC4570F-8
VRC4570F2-10,VRC4570F2-8

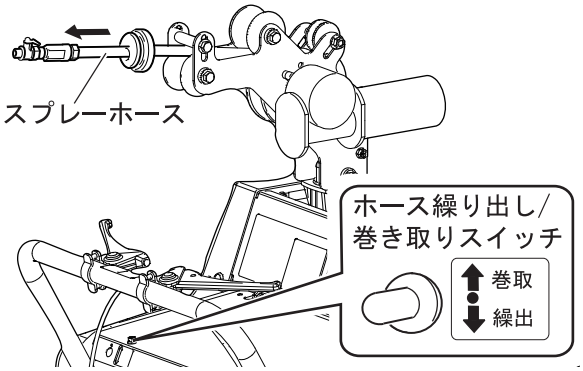


1. スプレーホースを手でゆっくり繰り出してください。
   * 勢いよく繰り出すとホースリールに巻いたスプレーホースがたるむことがあります。

重要

❍ ホースがホースリールの最後の 2 ~3 巻になったら、繰り出しを止めてください。ホースを全部引き出すとホースを破損する恐れがあります。

VRC6170F3-10,VRC4570F3-10
VRC4570F3-8



〈本機で操作する場合〉

- 製品のホース繰り出し / 巻き取りスイッチを「巻取」にします。

〈ラジコンで操作する場合〉

- 送信機の「ホースを出す」ボタンを押すと、押している間のみスプレーホースを繰り出します。ボタンを離すと停止します。

重要

❍ エンジンの回転速度が低いときは、繰り出しが断続する、または繰り出ししないときがあります。
❍ ホースは必要なだけ繰り出して、たるませないでください。ホースが破損したり、他の機器を破損したりする恐れがあります。
❍ 圧力をかけてホースを繰り出してください。圧力をかけないまま繰り出すと、ホースがつぶれて繰り出せないときがあります。そのときはホースを引いて、繰り出しを補助してください。
❍ ホースがホースリールの最後の 2 ~3 巻になったら、繰り出しを止めてください。ホースを全部繰り出すとホースを破損する恐れがあります。

5-2. スプレーホースの巻き取り

⚠ 警告

❍ ホースを巻き取るときは、身体に巻き付けないでください。
❍ ホーススストッパが取り付けられていることを確認してください。

ケガや事故を起こす原因となります。

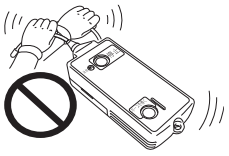
5. 作業方法

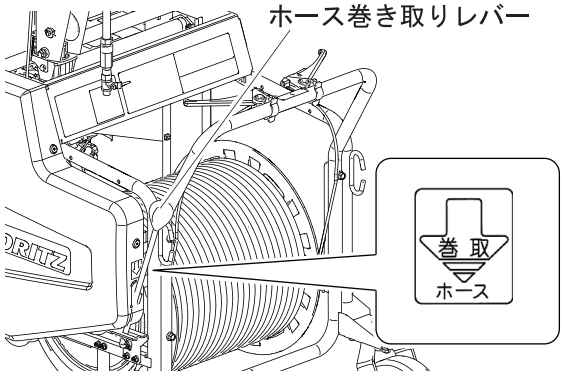
重要

- **エンジン回転が低速のときは、巻き取りが断続または巻き取らない場合があります。（VRC 系）**
- **ホースに圧力をかけたまま巻き取ってください。**

  圧力を抜いて巻き取るとホースがつぶれて巻き取られ、圧力がかかったときにホースリールが破損する恐れがあります。
- **スプレーホースに異常な抵抗がかかったまま巻き取りを行わないでください。**

  巻き取り装置が破損します。
- **ホースリール下側にスプレーホースが弛んだままの状態で巻き取りすると、正常な並列巻き取りができません。**
  そのような場合には、スプレーホースを手動で引き出して弛みをなくしてから巻き取ってください。
- **スプレーホース巻き取りは、ホース先端より 3m のところで停止するようにしてください。**
- **送信機のアンテナ部分を持たないでください。内部のアンテナ線が断線し、製品の操作ができなくなる場合があります。（VRC 系）**

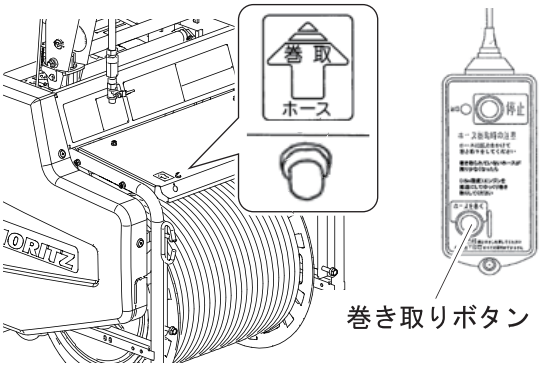




VSC4570F-10・VSC4570F-8

〈本機で操作する場合〉

- ホース巻取りレバーをハンドル側に引いてください。



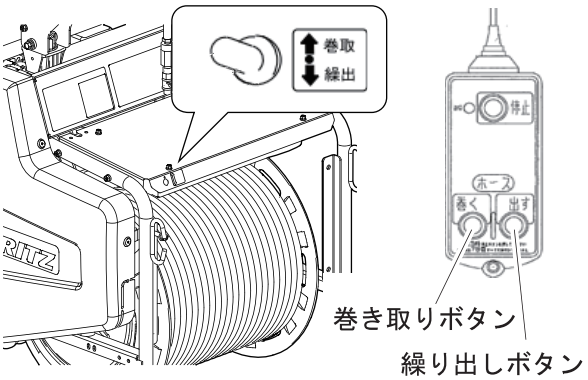
VRC4570F2-10・VRC4570F2-8

〈本機で操作する場合〉

- 製品のホース巻き取りスイッチを「巻取」にします。

〈ラジコンで操作する場合〉

- 送信機の「巻く」ボタンを押すと押している間のみスプレーホースが巻き取られます。



VRC6170F3-10・VRC4570F3-10
VRC4570F3-8

〈本機で操作する場合〉

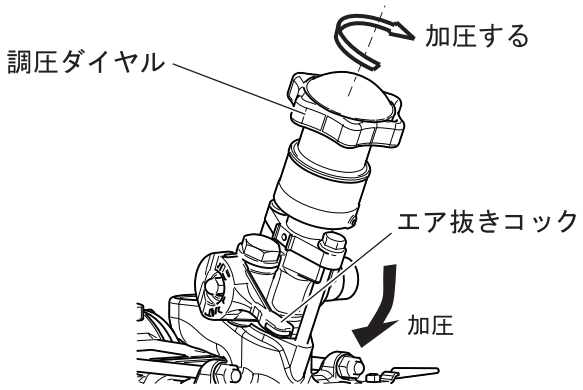
- 製品のホース巻き取り・繰出しスイッチを「巻取」にします。

〈ラジコンで操作する場合〉

- 送信機の「巻く」ボタンを押すと押している間のみスプレーホースが巻き取られます。

5. 作業方法

5-3. 圧力の操作



1. エア抜きコックを「加圧」位置に合わせて下さい。
2. 必要な圧力まで調圧ダイヤルを回してください。

重要

❍ ホースの最高使用圧力を超えて使用すると、ホースの破裂や金具抜けを生じる原因となります。最高試用圧力、またはそれ以下で使用してください。

5-4. 散布作業

⚠ 警告

❍ **日中を避け、涼しい朝、夕方に行ってください。**

気温が上がると農薬が空気中に上昇したり、気化し、薬害を引き起こす恐れがあります。

❍ **風が強いときは散布作業をしないでください。**
❍ **風下を向き、風を背中に受けるようにして後ろ側へ進みながら散布してください。**

薬液が予期しない方向へ飛び、薬害事故の原因となります。

❍ **作業関係者以外の人・家畜・養蚕・養蜂・他の作物などが近くにないことを確認してください。**

無防備な第三者の薬害事故や、環境被害の原因となります。

❍ **散布作業中にタバコを吸ったり、飲食をしないでください。**

タバコや飲食物に付着した農薬が、体内に入る恐れがあります。

❍ **散布作業をするときは製品をしっかり固定してください。**
❍ **製品を移動しながら散布作業をしないでください。**

転倒・落下して、ケガや事故を起こす原因となります。

❍ **ホースは適正圧力範囲内で使用してください。**

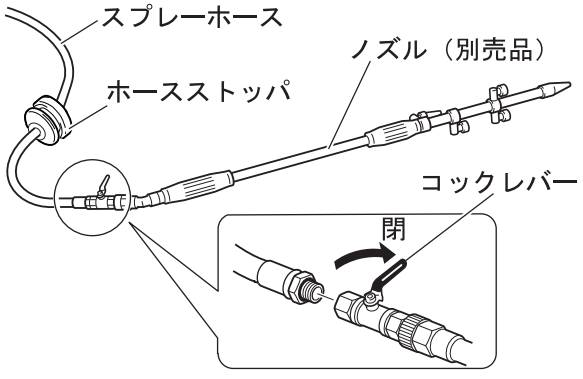
ホース破損や薬液事故を負う恐れがあります。

❍ **製品の運転中および停止後しばらくの間は、マフラなどの高温部に触れないでください。**
❍ **エンジンに絡み付いた草などを取り除くときは、エンジンを停止してください。**

高温部に触れると火傷したり、回転部に触れるとケガや事故を起こす原因となります。

❍ **散布ノズルを人に向けないでください。**

薬害事故の原因となります。



⚠ 注意

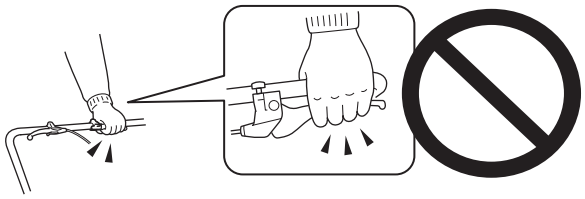
❍ **コックレバーはあらかじめ「閉」位置にしてください。**

動噴の運転により生じる水流によって、ホースがあばれて、事故の原因となる恐れがあります。

❍ **ポンプクラッチレバーはしっかり握って確実に操作してください。**

操作途中で放したりするとレバーが手にあたり、思わぬ事故の恐れが有ります。

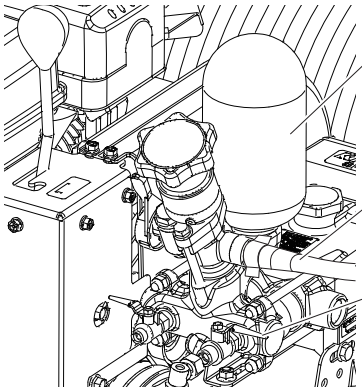
5. 作業方法



⚠ 危険

- **散布作業中に、走行クラッチレバーを操作しないでください。**

  本機が走行し思わぬ事故につながります。



重要

- **散布コックを中間位置で止めないでください。**
- **長時間使用すると動噴のエアチャンバーの空気が水に溶け、抜けてしまうことがあります。**
- **故障の原因となるので、必ず 2 時間毎に吸水ストレーナを水から出し、余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。**
- **ホースが絡まったり、ねじれたりしないようにしてください。**

⚠ 警告

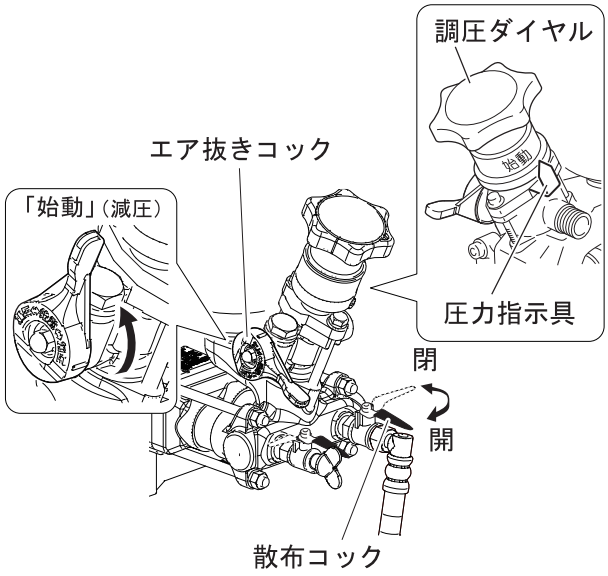
- **原則平地で作業してください。**
- **急傾斜地では使用しないでください。**

  傾斜性能
  前後の角度：15° 以下
  左右の角度：10° 以下

  事故や製品不具合の原因になります。

散布コックを「開」の位置に動かしてください。散布を止めるときは、散布コックを「閉」の方へ動かしてください。

■散布作業の停止



1. 手元のノズルコックを閉めます。
2. 調圧ダイヤルを「始動」の位置に戻します。
3. 散布コックを閉めます。

⚠ 注意

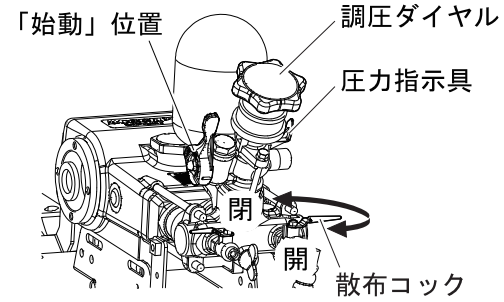
- **動力噴霧機やエンジンに絡み付いた草などを取り除く時は、必ずエンジンを停止してください。**

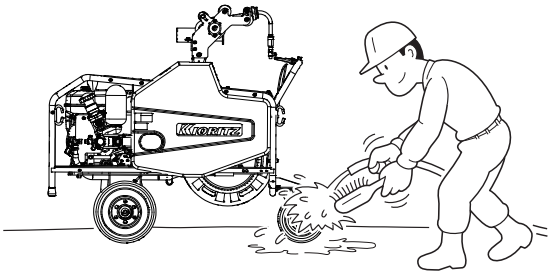
  やけどやケガを負う原因となります。

5-5. 作業終了後

⚠ 警告

❍ **農薬散布直後のほ場に無防備で入らないでください。**
❍ **薬液が乾くまで「立入禁止」の表示を置いて、第三者の立入を禁止してください。**
薬害事故の原因となります。





1. 吸・余水ホースをきれいな水の中に入れて噴霧を行ない、動力噴霧機の内部、ホース、ノズルの清掃をしてください。
   製品の外側や車輪に付いている泥などの汚れた部分を洗ってください。
2. 吸水ストレーナを使用毎に清水で掃除してください。詰まっていると脈動や振動の発生原因となります。
   * 洗った水は外部に破棄しないでください。
3. 動噴内の水を抜くため、圧力を下げて吸水ホースを水から出して余水ホースから空気が出るまで運転を続けてください。

重要

❍ 空運転の状態となるので、5 分以上運転をしないでください。
❍ 運転中に注油口からオイルを 10 滴ほど注油してください。
❍ 製品の外側、車輪を洗うときは、電気系統部品や操作部に水をかけないでください。
❍ 洗浄機などによる高圧洗浄をしないでください。故障の原因になります。

6. 点検・整備

⚠ 警告

❍ **エンジンが停止し、冷えた状態で点検・整備をしてください。**
火傷の原因となります。

重要

❍ お買い求め頂いた製品を安全にご使用いただくために、定期的に点検・整備を行なってください。
❍ 1 年に 1 回以上は、お買い求めの販売店に、定期点検を依頼してください。
点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分できない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
❍ 毎月、毎年の点検・整備をした日付を記録してください。
❍ 動噴・エンジンは各付属の取扱説明書を参照して、点検・整備を行なってください。
❍ 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。
処理は購入した販売店にご相談ください。

6-1. 潤滑油について

❍ 潤滑油は潤滑作用の他、冷却・洗浄作用があります。機械の性能・耐久性と重大な関係があるので、規定の使用時間により指定の油を適量給油してください。

点検・整備項目	整備内容	使用毎	作業 20 時間毎	作業 50 時間毎	100 時間毎／毎年	参照ページ
注油口	注油	○ ※1				31
移動ガイド軸	グリース	○				31
トラバースカム軸	グリース	○				31
ホースリール軸	グリース	○				31
ホースガイドローラ軸	グリース		○			31
ポンプクラッチレバー支点部	グリース			●		7
エンジン	オイル交換			● ※2,3		-
動噴	オイル交換				○ ※4,5	31
駆動チェーン	注油				● ※6	31

※1：使用毎、作業終了後
※2：初回 20 時間、以降 50 時間毎
※3：種類；エンジン取説参照、規定量；エンジン取説参照
※4：初回 50 時間、以降 100 時間毎、白濁している場合は交換
※5：種類；エンジンオイル CD または SE 級 SAE#30、規定量；0.65 L
※6：毎年

○：ご自分で点検・整備してください。
●：製品の性能維持のため、お買い求めの販売店に定期的な点検を依頼し必要に応じ交換してください。

6-2. 各部の点検

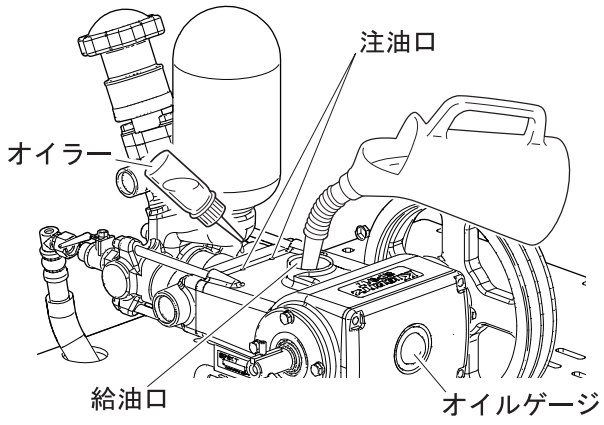
❍ 製品の点検、調整を怠ると事故の原因となることがあります。常に点検を行なって、製品を正常な状態に保つことが安全につながります。必ず実施してください。
❍ 始業点検は、使用者の方が行なってください。
❍ 点検して異常があった場合は、速やかにお買い求めの販売店へ修理を依頼してください。
❍ ご不明な点は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

6. 点検・整備

項目	点検・整備内容	点検・整備時期			
		始業前	初回 5 時間	20 時間 毎	使用 時期毎
V ベルト	ベルトの張りは適正か		○		●
	亀裂、損傷はないか		○		●
燃料	燃料タンクに燃料は入っているか	○			
	燃料キャップは確実に締まっているか	○			
可燃物の付着	製品およびエンジンに草、屑などの可燃物が付着していないか	○			
エンジンスイッチ	エンジンが始動・停止するか	○			
マーク類	マークのはがれ、脱落、損傷はないか	○			
フレーム	亀裂、変形、腐食はないか				●
足回り	タイヤの空気圧は適正か	○			
	タイヤ、リム、ハブの亀裂、損傷はないか	○			
エンジン	オイルの量は適切か	○			
	オイルの漏れはないか	○			
カバー類	カバー類に亀裂、変形、損傷はないか				●
	カバー類に脱落はないか	○			
ブレーキレバー	確実に停止できるか	○			
走行クラッチレバー	スムーズな発進と、確実に停止できるか	○			
動噴	オイルの量は適切か	○			
	オイルの漏れはないか	○			
駆動チェーン	チェーンの張りは適正か		○		●
ホース類	ヒビ割れ、亀裂、摩耗、硬化はないか	○			
移動枠の駒	摩耗していないか			●	

○：ご自分で点検・整備してください。
●：製品の性能維持のため、お買い求めの販売店に定期的な点検を依頼し必要に応じ交換してください。

6-3. 各部の注油・給油



点検・整備の表に従って注油をしてください。

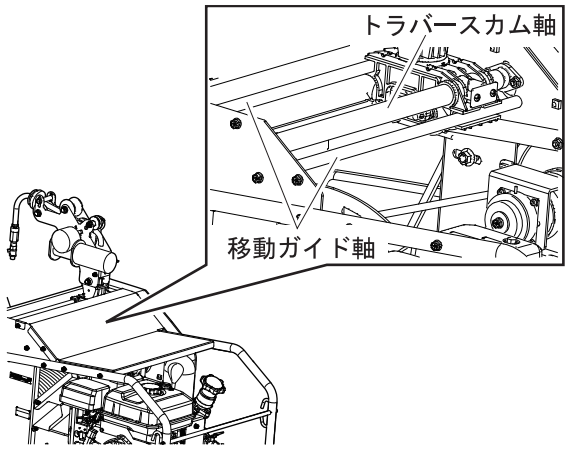
❍プランジャー部分の注油

（使用する毎に注油してください）
付属のオイラでプランジャ注油口から 10 滴ほど注油してください。

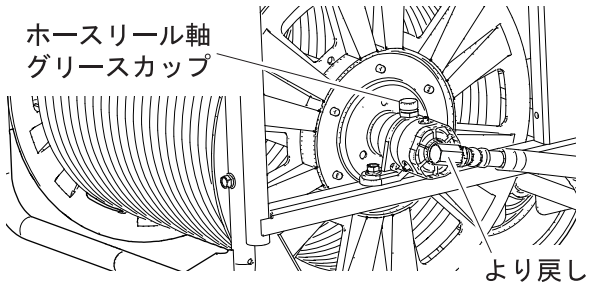
❍クランクケースのオイル交換

（最初は 50 時間使用した後に、それ以降は 100 時間使用する毎に交換してください）

ＣＤ、または SE 級、SAE#30 のオイルを使用してください。
・規定量 ‥‥‥ オイルゲージ中央迄

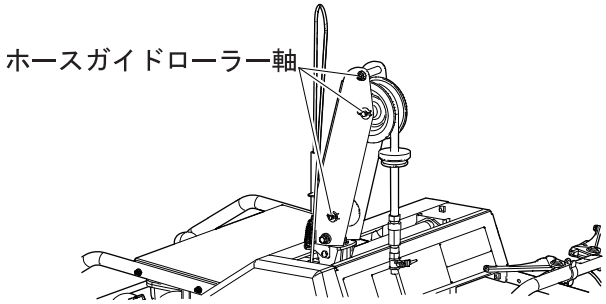


1. トラバースカム軸と移動ガイド軸にグリースを塗布してください。上から塗布するのが難しい場合は下から塗布してください。

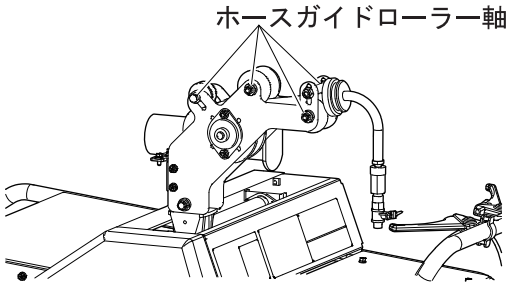


2. ホースリール軸グリースカップにグリースを十分注入し、ねじ込んでください。グリースが不足のときは補充してください。
3. より戻しの回転部（L 形部）にグリースを塗布してください。

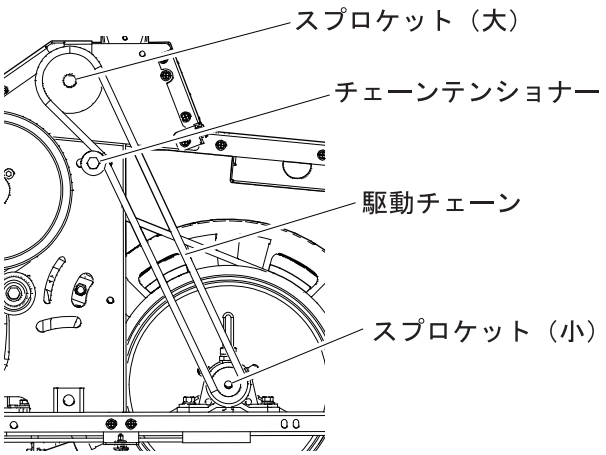
VSC4570F-10,VSC4570F-8
VRC4570F2-10,VRC4570F2-8



VRC6170F3-10,VRC4570F3-10
VRC4570F3-8

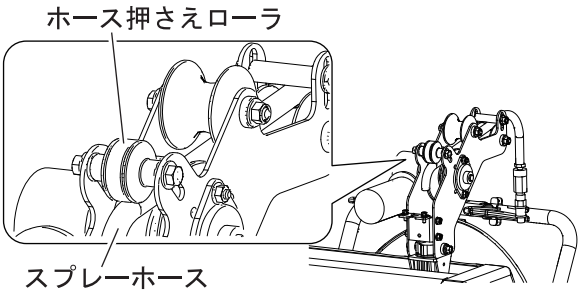


4. ホースガイドローラー軸にグリースを塗布してください。



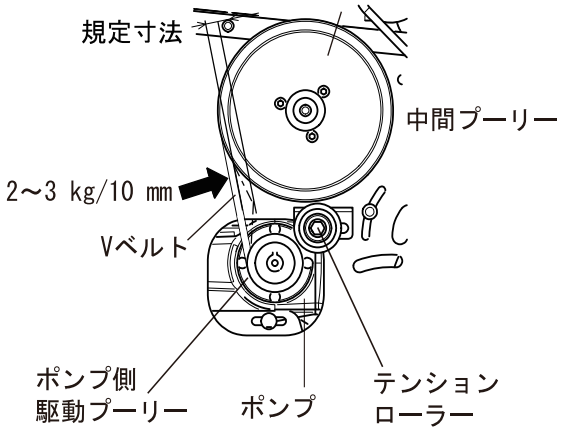
5. トラバース駆動用のチェーン、スプロケット、チェーンテンショナーに注油してください。

6-4. ホース押さえローラの調整



ホース押さえローラをホースに圧力を掛けない状態で触れる程度のところで固定してください。

6-5. 中間軸ベルトの調整



ベルトの中央をバネはかりなどで矢印方向に 2 ～ 3 kg の力を加えて、規定寸法になるように確認してください。

* 規定寸法：10 mm

1. テンションローラーの M10 ナットをゆるめて張り方向に動かしてベルトの張りを適正にしてください。
2. 調整後、M10 ナットで固定してください。

6-6. ポンプベルトの点検・調整

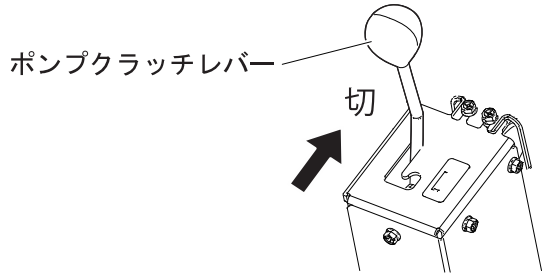
⚠ 警告

❍ エンジンを運転したままでの調整は、絶対にしないで下さい。

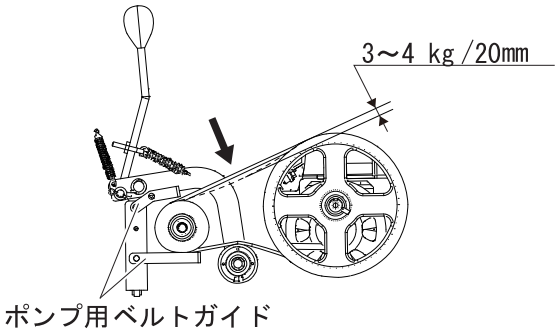
* 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。

全機種

❍ 長時間使用するとポンプのベルトが伸び、ベルトがスリップするので下記のように調整してください。



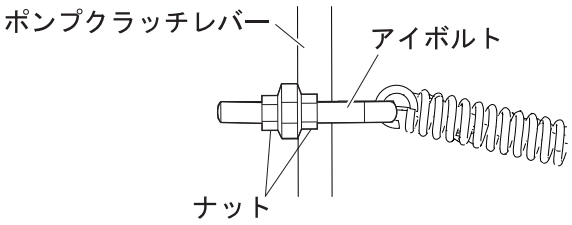
1. エンジンを停止してベルトカバーを取り外してください。
2. ポンプクラッチレバーは「切」にしてください。



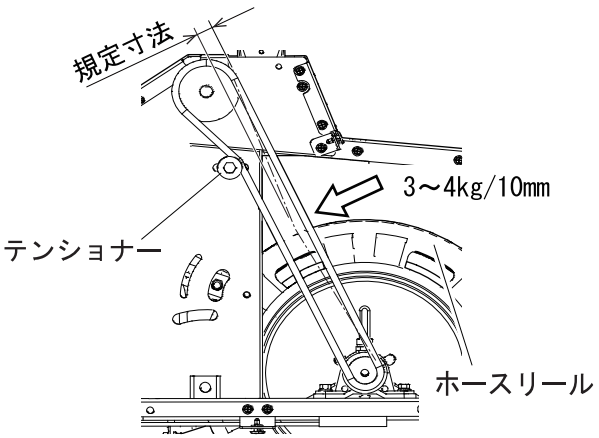
3. ナットを緩めてアイボルト張り方向なるように回して絞めつけて下さい。
4. ベルトガイドのネジを少し緩めます。
5. ポンプクラッチレバーは「切」のままでエンジンのリコイルを引き、Ｖベルトの「つれ回り」がしなくなる位置にベルトガイドを調整します。
6. ベルトガイドねじを絞めつけます。
7. エンジンを始動してエンジンの回転を変化させＶベルトが「つれ回り」しないか確認してください。
8. エンジンを停止させ、ポンプクラッチレバーを「入」にして、ベルト中央をバネはかりなどで矢印の方向に 3 ～ 4kg の力をくわえて、規定寸法になるようにアイボルトを調整してください。

   * 規定寸法：20mm。

9. アイボルトの調整範囲が超えて規定寸法に入らなくなった場合、ベルトを交換してください。



6-7. トラバースチェーンの点検・調整



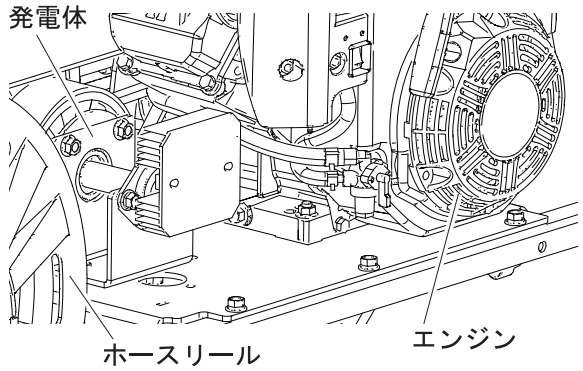
〈全機種〉

チェーン中央をバネはかりなどで矢印方向に 3 ～ 4 kg の力をくわえて、規定寸法になるように確認してください。

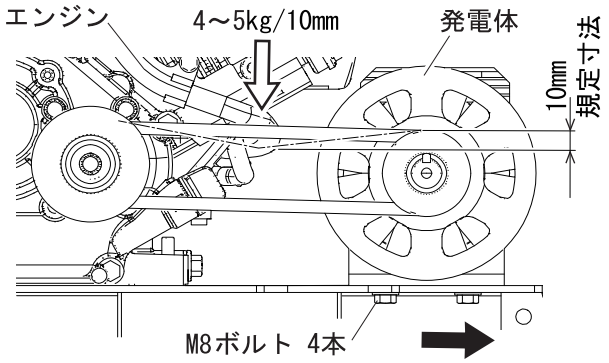
* 規定寸法：3 ～ 4kg / 10 mm

1. チェンの張りが適性になるように、テンショナーで調整してください。

6-8. 発電体のベルト点検・調整



発電体はエンジンとホースリールの中間にあります。

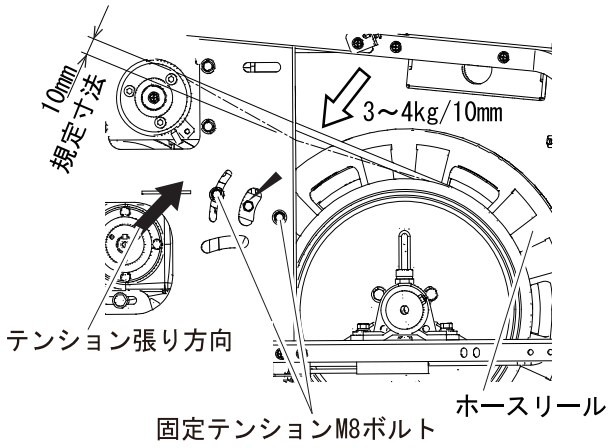


ベルト中央をバネはかりなどで矢印方向に約 4 ～ 5 kg の力をくわえて、規定寸法になるように確認してください。

* 規定寸法：4 ～ 5kg / 10 mm

1. 発電体下部にある M8 ボルト（4ヶ所）をゆるめてください。
2. 発電体の位置を矢印の方向に移動させてベルトの張りを適正にしてください。
3. 調整後 M8 ボルトを固定してください。

6-9. ホースリールベルトの点検・調整

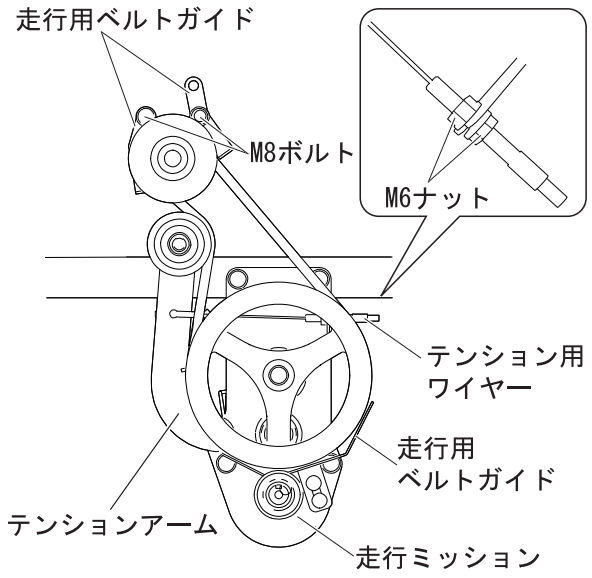


ベルト中央をバネはかりなどで矢印方向に約 3 ～ 4 kg の力をくわえて、規定寸法になるように確認してください。

* 規定寸法：10 mm

1. 固定テンション M8 ボルトをゆるめてください。
2. 固定テンションの位置を矢印の方向に移動させベルトの張りを適正にしてください。
3. 調整後、固定テンション M8 ボルトを締めてください。

6-10. 走行ミッションのベルト点検・調整



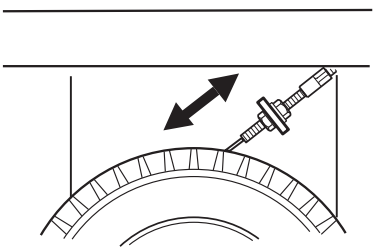
長時間使用するとベルトが伸びてスリップすることがあります。テンション用ワイヤーのナットをゆるめてベルトを張ってください。またベルトガイドも調整してつれ回りにならないようにしてください。

6-11. タイヤの点検

６ヶ月に１回、以下の項目を点検してください。

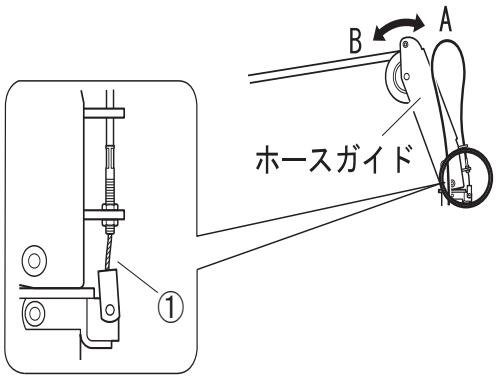
- ❍ 標準空気圧：０．２ＭＰａ（２．０Kgf/cm ２）
- ❍ 走行タイヤに損傷がないこと。
- ❍ ホイールボルトがゆるんでいないこと。

6-12. ブレーキの調整・点検



- ❍ シーズン前に必ず点検してください。

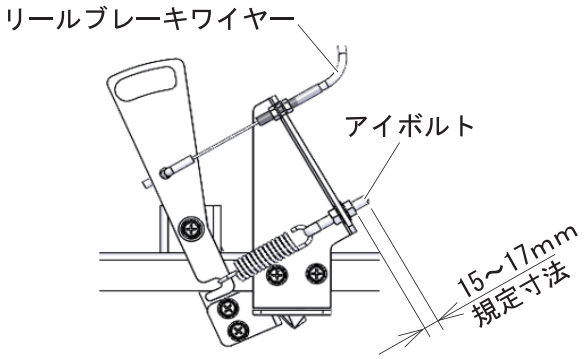
片効きするような場合は、ブレーキの両輪のワイヤー調整を行い、フリーの状態でブレーキが作用しないようにしてください。



- ❍ シーズン前に必ず点検してください。

VSC4570F-10, VSC4570F-8, VRC4570F2-10, VRC4570F2-8

リールブレーキの効きが悪くなったら、ブレーキの作動確認、調整をしてください。



❍ ブレーキの作動確認

次の状態のとき、リールブレーキは正しく作動します。

1. ホースガイドが［A］方向にあるとき、①を突っ張らない程度に調整し、ホースリールが回らない。
2. ホースガイドを［B］方向に倒した時に、ホースリールが回る。

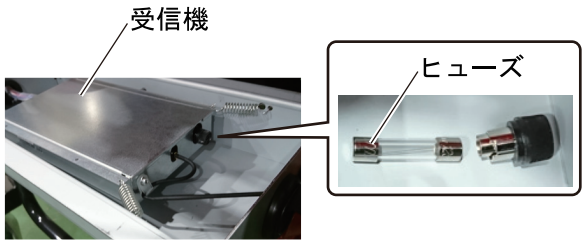
❍ ブレーキの調整方法

1. ホースガイドが［B］方向に倒れたときに、リールがフリーになる位置でワイヤーをロックしてください。
2. アイボルトを調整し、リールが巻取り方向に回らないくらい十分なブレーキカを得られるよう調整してください。

   * 規定寸法：15 ～ 17mm
3. デンデンボルトを調整してもブレーキがきかないときはブレーキシュー又はベルトの背面が摩耗して交換が必要になるので、販売店に相談してください。

6-13. ヒューズの交換

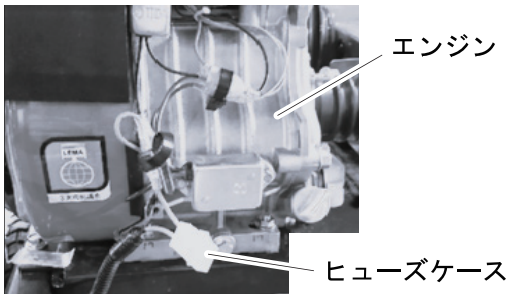
VRC4570F2-10,VRC4570F2-8



❍ 電気部品や配線などに異常があった場合、ヒューズが保護回路として働きます。
❍ ヒューズが溶断した場合は、原因を取り除いた後に交換してください。

5A ガラス管ヒューズ（φ6.3×31.5mm）

VRC6170F3-10,VRC4570F3-10
VRC4570F3-8



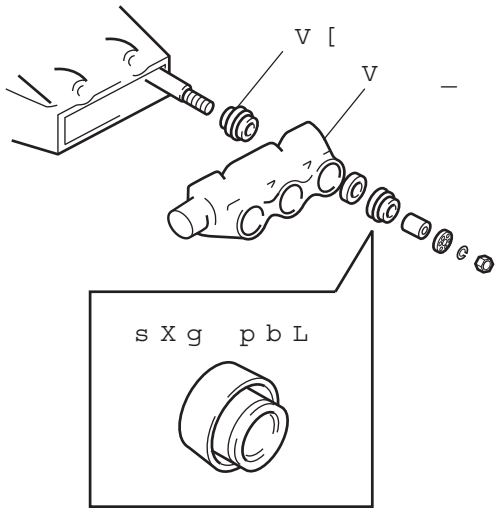
5A ミニ平型ヒューズ

重要
❍ 指定されたヒューズのみ使用してください。

6-14. 点火プラグの交換

❍ 点火プラグは抵抗入りを使用してください。(VRC 系)
誤作動の原因となります
❍ 搭載エンジンにより点火プラグが異なります。指定プラグ（「仕様」の章を参照）を使用してください。

6-15. ポンプのピストンパッキン、水シールの交換



❍ **ピストンパッキン・水シール**

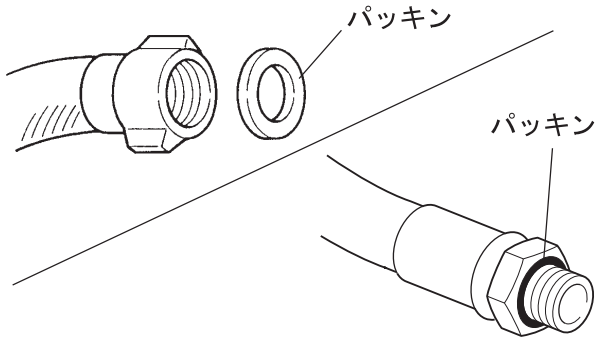
（使用時期前に点検してください）
長時間使用し、吸水しなくなったり圧力が上がらなくなったときは、ピストンパッキン・水シールが摩耗している可能性があります。シリンダーを外し、ピストンパッキン・水シールを交換してください。

＊ ピストンパッキ及び水シールは交換の際に向きを間違えないでください。

6-16. ホース類の点検

⚠ 警告

❍ **ホースが劣化したり漏れがあるときは、新品に取り替えてください。**
薬害事故を負う原因となります。



各ホースの外観、継手パッキンの点検をしてください。

重要

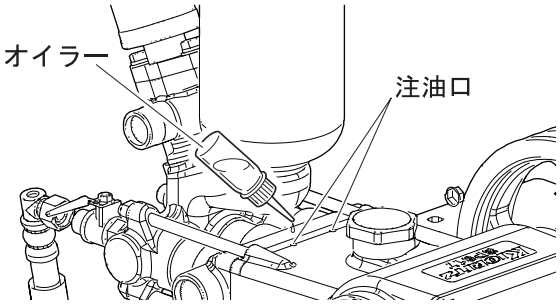
❍ ホースは古くなると硬化し、亀裂などが起こりやすくなります。使用前にホースの点検をしてください。

7. 保管

⚠ 警告

❍ **燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばには保管しないでください。**
火災の原因となります。

❍ **製品を長期間保管するときは、次の手順で整備をしてください。**

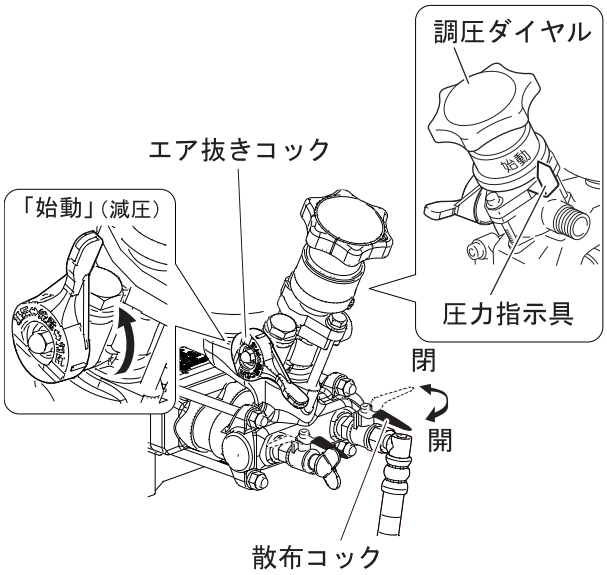


1. きれいな水を数分間噴霧し、配管内各部を洗浄してください。
2. シリンダ下部のドレンプラグを外して、エア抜きコックを「始動」（減圧）位置に合わせて、1 分間カラ運転をして完全に水抜きしてください。
3. 運転中に注油口からオイルを 10 滴ほど注油してください。

重要

❍ 水抜きをする動噴のカラ運転は、5 分以下としてください。カラ運転による破損は、保証の対象外になります。

凍結の恐れがある場合は、さらに次の操作を行なってください。



4. 散布コック部のホース継手金具を外し、スプレーホースの端部からエアを吹き込み、スプレーホース内の残液を放出してください。
5. 動噴のドレンプラグを外し、水抜きをしてください。
6. 凍結を防ぐためには、自動車用ウインドウォッシャー液を配管内各部に充填する方法もあります。その場合は動噴・ホース内の水を抜いてから、水と自動車用ウインドウォッシャー液の混合液を充填してください。
   * 混合液の濃度は、自動車用ウインドウォッシャー液に付属の説明書を参照してください。

重要

❍ 寒冷時に保管するときは、凍結による破損を防ぐため、各部の水抜きを完全に行なってください。凍結による破損は、保証の対象外となります。
❍ 長期間使用しない場合には、送信機の乾電池は必ず外してください。液モレにより送信機が故障する原因となります。

7. 本書に定められた定期的な点検をしてください。
8. スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。
9. 送信機の電池を抜いてください。
10. 製品を子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

8. 故障対策

8-1. 故障診断表

重要
❍ **補用品や消耗品は、必ず純正部品または指定品を使用してください。** 他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると、故障の原因となる場合があります。

❍ 使用中に不具合が起きたときは、動噴、エンジンの取扱説明書、または下記の表を参照してください。

不調の状況	原因	処置
吸水しない、または途中から吸水しなくなった	吸水ホースが破損、または折れている	交換、またはのばす
	吸水ホースとニップルが締め付け不良、またはパッキンの脱落	パッキンが入っていることを確認して締めなおす
	吸込ストレーナが液面に浮き上がっている	浮き上がらないように固定する
	吸込ストレーナの周りにゴミが付着している	ゴミを取り除き、清水でよく洗う
	動噴の吸・排水弁に砂、ゴミが付着している	動噴の取扱説明書を参照して、よく洗い落とす
	動噴の吸・排水弁が摩耗している	新品と交換する
	水シールが摩耗して空気を吸っている	新品と交換する
余水ホースから気泡が出る	吸水ホースの取付ネジがゆるんでいる	パッキンが入っていることを確かめてから締めなおす
	吸水ホース用パッキンがすり切れている	新品と交換する
	シリンダ、弁室の締め付けナットがゆるんでいる	ナットを交互に増締めする
	水シールが摩耗している	新品と交換する
圧力が上がらない	ノズルからの噴霧量が多く、余水が少ない	全吐出量の 10 % 以上を余水に戻すようノズルを交換する
	調圧弁、調圧弁座が摩耗している	新品と交換する
	ピストンパッキンが摩耗している	新品と交換する
圧力を調整したのち散布を始めると圧力の降下がはげしい	下記のいずれかが原因で余水量が吸水量の 10 % 以下である（吐出過多）	
	動噴回転数が不足している	回転を上げる
	噴口が摩耗して散布量が多すぎる	新品と交換する
	噴頭数が多すぎる	数を減らす
スプレーホースの巻き取り（または繰り出し）が不調	受信機の受信状態が悪い	周辺の障害物を取り除くまたは、受信できる位置に本体を移動する
	ホースリール V ベルトのゆるみ	V ベルトの張りを調整する
	中間軸の電磁クラッチの摩擦面にゴミ・油分などが付着している	摩擦面を掃除する
	移動枠の動きが悪い	各部に給油をし、動きを確認する (31 ページ以降参照) または、販売店で新品と交換する
ラジコンが作動しないまたは不調	ラジコン送信機の乾電池が消耗	全て新品と交換する (単四乾電池 3 本)
	受信機内のヒューズが切れている	ヒューズを交換する
	エンジン低回転による電圧低下	エンジンの回転をあげる
	送受信機が誤作動を起こす	最寄の売店にご相談ください

8. 故障対策

不調の状況	原因	処置
始動スイッチを「入」にしても電源が入らない	5A ヒューズが切れている	ヒューズ（5A）を交換する
エンジンが停止できない	始動スイッチが破損している	新品と交換する

❍ 表中に記載されていない故障、ご不明な点はお買い求めの販売店にご相談ください。

8-2. 製品の破棄

❍ 製品や部品を廃棄するときは、お買い求めの販売店に相談するか、自治体の指導に従ってください。

9. 仕様

項目		単位	VSC4570F-10	VSC4570F-8
長さ × 幅 × 高さ		mm	1150×680×1090	
質量		kg	125	120
動力噴霧機	型式	-	SP457	
	回転数	rpm	830	
	常用圧力	MPa(kgf/cm^2)	5.0 (50)	
	吸水量	L/min	30	
エンジン	型式	-	GB181LN	
	排気量	mL	181	
	最大出力	kW (PS)	4.6 (6.3)	
	燃料	-	自動車用無鉛ガソリン	
	点火プラグ	-	NGK BP6HS	
	始動方式	-	リコイルスタータ方式	
スプレーホース		φmm×m	10×130	8.5×130
リール駆動方式		-	ベルトテンションクラッチ	
走行部	変速段数	-	前進 1 段	
	走行速度	km/h	1.43	
	タイヤ空気圧	MPa（kgf/cm^2）	0.2（2.0）	
使用温度範囲		℃	10 ～ 50	

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

9. 仕様

項目		単位	VRC4570F2-10	VRC4570F2-8
長さ × 幅 × 高さ		mm	1150×680×1190	
質量		kg	130	125
動力噴霧機	型式	-	SP457	
	回転数	rpm	830	
	常用圧力	MPa(kgf/cm^2)	5.0 (50)	
	吸水量	L/min	30	
エンジン	型式	-	GB181LN	
	排気量	mL	181	
	最大出力	kW (PS)	4.6 (6.3)	
	燃料	-	自動車用無鉛ガソリン	
	点火プラグ	-	NGK BPR6HS（抵抗入り）	
	始動方式	-	リコイルスタータ方式	
送受信機	形式	-	ワイヤレスリモコン自動巻き取り	
	リモコン方式	-	426.025~426.137 MHz 特定小電力無線 （2 ch）	
	送信機電源	-	DC4.5 V（単四乾電池　直列 3 本）	
	受信アンテナ	mm	175（全長） 着脱タイプバー式	
巻取装置	巻き取り方式	-	自動並列巻き取り	
	駆動方式	-	V ベルト（電磁クラッチ）	
スプレーホース		φmm×m	10×130	8.5×130
ラジオコントロール		-	エンジン停止、ホース巻き取り	
走行部	変速段数	-	前進 1 段	
	走行速度	km/h	1.43	
	タイヤ空気圧	MPa（kgf/cm^2）	0.2（2.0）	
使用温度範囲		℃	10 ～ 50	

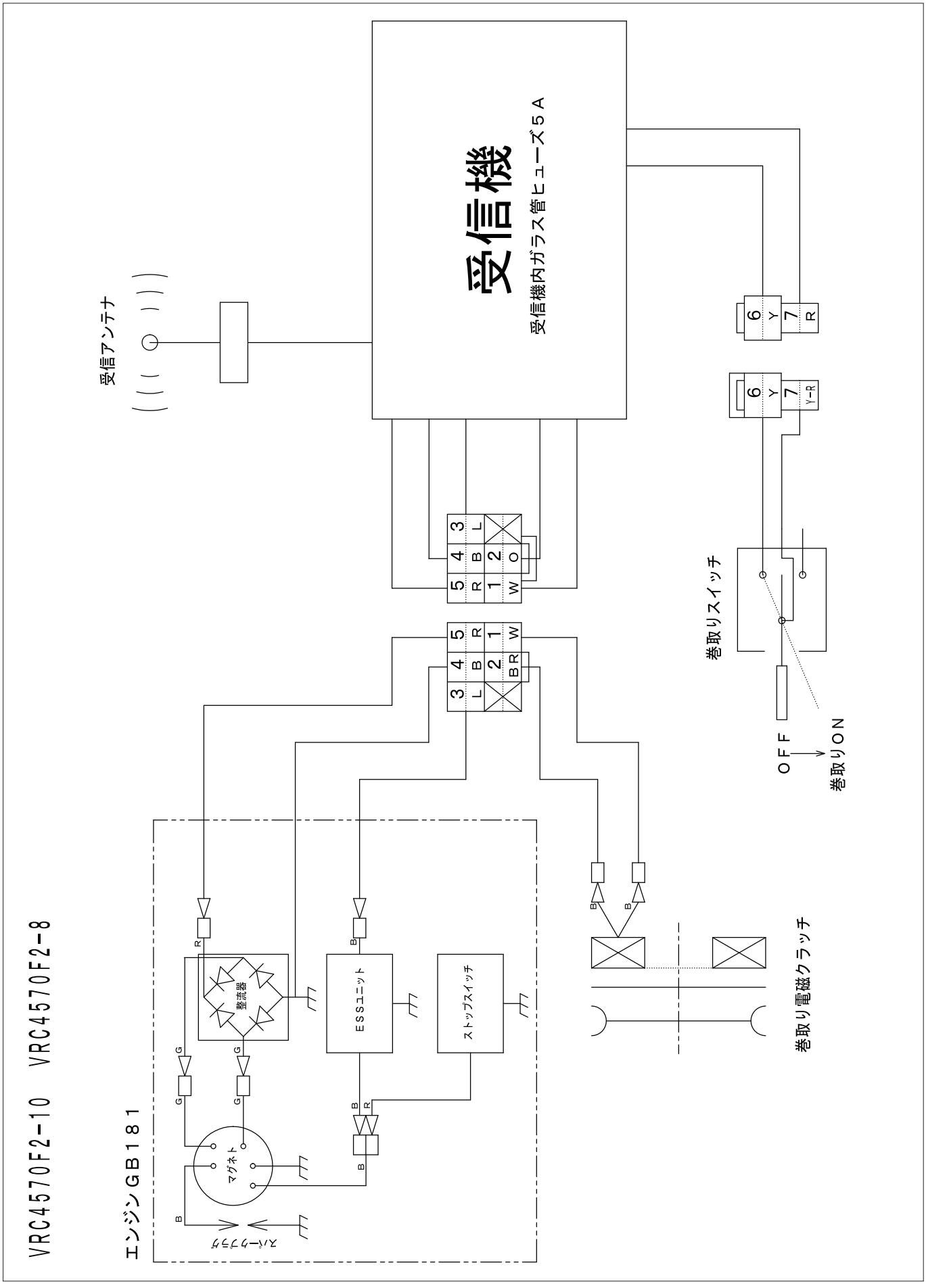
＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

9. 仕様

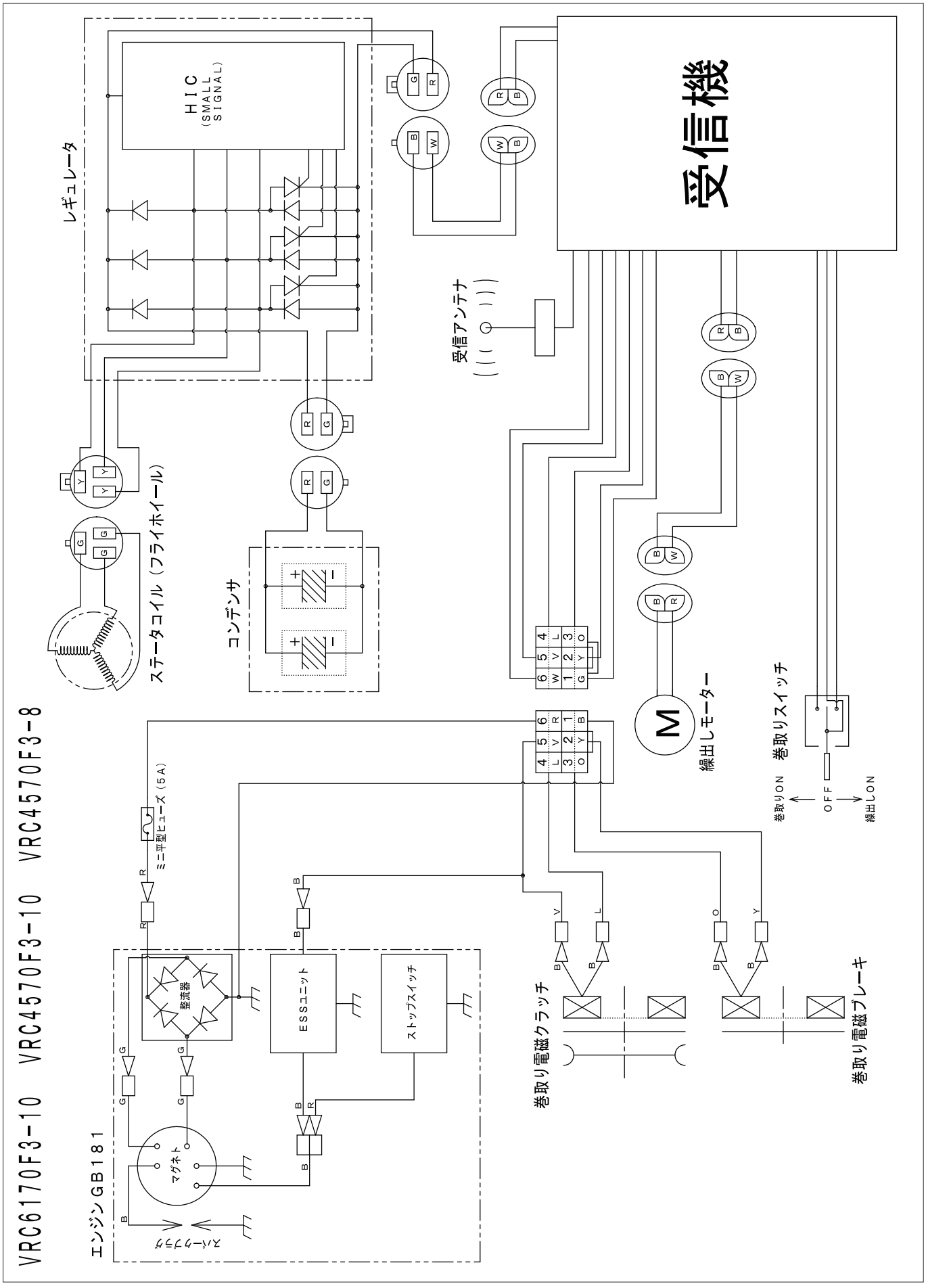
項目		単位	VRC6170F3-10	VRC4570F3-10	VRC4570F3-8
長さ × 幅 × 高さ		mm	1150×680×1070		
質量		kg	145	145	140
動力噴霧機	型式	-	SP617	SP457	
	回転数	rpm	640	830	
	常用圧力	MPa(kgf/cm^2)	5.0 (50)		
	吸水量	L/min	32	30	
エンジン	型式	-	GB181LN		
	排気量	mL	181		
	最大出力	kW (PS)	4.6 (6.3)		
	燃料	-	自動車用無鉛ガソリン		
	点火プラグ	-	NGK BPR6HS（抵抗入り）		
	始動方式	-	リコイルスタータ方式		
送受信機	形式	-	ワイヤレスリモコン自動巻き取り		
	リモコン方式	-	426.025~426.137 MHz 特定小電力無線 （3 ch）		
	送信機電源	V	DC4.5 V（単四乾電池　直列 3 本）		
	受信アンテナ	mm	175（全長） 着脱タイプバー式		
巻取装置	巻き取り方式	-	自動並列巻き取り		
	駆動方式	-	V ベルト（電磁クラッチ）		
繰出装置	繰り出し方式	-	モータ駆動式（強制繰出）		
スプレーホース		φmm×m	10×130		8.5×130
ラジオコントロール		-	エンジン停止、ホース巻取、ホース繰出		
走行部	変速段数	-	前進 1 段		
	走行速度	km/h	1.43		
	タイヤ空気圧	MPa（kgf/cm^2）	0.2（2.0）		
使用温度範囲		℃	10 ～ 50		

＊ この仕様は予告なしに変更することがあります。

10. 配線図


VRC4570F2-10　VRC4570F2-8
エンジンGB181
受信機
受信機内ガラス管ヒューズ5A
受信アンテナ
整流器
ESSユニット
ストップスイッチ
マグネト
スパークプラグ
巻取りスイッチ
OFF
巻取りON
巻取り電磁クラッチ

10. 配線図


VRC6170F3-10 VRC4570F3-10 VRC4570F3-8
受信機
レギュレータ
HIC
(SMALL SIGNAL)
受信アンテナ
ステータコイル（フライホイール）
コンデンサ
繰出しモーター
巻取りスイッチ
巻取りON
OFF
繰出しON
巻取り電磁クラッチ
巻取り電磁ブレーキ
エンジンGB181
ミニ平型ヒューズ（5A）
整流器
ESSユニット
ストップスイッチ
マグネト
スパークプラグ

メ　モ

株式会社やまびこ

〒 198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0120-176-181(製品・技術的な問い合わせ)
受付時間:弊社営業日　9:00～12:00 / 13:00～17:00

やまびこジャパン株式会社

〒 198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2
TEL　　:0428-32-6181（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X753-009441
X753622-0803　　2509mh ES

(C) 2024 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。